

県政について県民同士で意見交換！

なら県民電子会議室



奈良県総務部知事公室広報・広聴課
課長 西川良秀 様

21年度上期「なら県民電子会議室」の報告書

～ 県政について県民同士での意見交換～

2009年度10月4日
NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ
理事長 奥家孝彦

【目 次】

- I. はじめに
- II. 提言
- III. 電子会議室の報告
 - III-1: ものづくり産業を考える
～ 奈良に興したいこんな産業～
コーディネーター：馬場英彦
 - III-2: 「もてなしの心」あふれる奈良
～ ひと声からはじまるコミュニケーション～
コーディネーター：石川千明
 - III-3: 奈良の医療をよくするために
～ 受診者の立場から医療を考える～
コーディネーター：馬詰真一郎 / 吉岡敏子
 - III-4: ホタルが飛び交う河川の範囲を拡げよう
～ 河川・公園・道路を美しくするには～
コーディネーター：松本清二
- IV. 広報活動、登録・投稿・アクセス集計
- V. まとめ

【添付資料】

- 1. なら県民電子会議室の分析データ
- 2. 21年度上期運営委員会委員
- 3. 21年度上期「なら県民電子会議室」
ポスター



1. はじめに

1. 目的

この電子会議室は、インターネットを活用して県民同士が県政について幅広く議論できる場を提供することにより、県民の県政に関する理解と関心を高めることを目的とする。

2. 電子会議室に期待するもの

～電子会議室の、さらなる活性化を目指して～

現在インターネット上では、さまざまなサービスが次々と提供されている。個人向けサービスや、ビジネス向けサービスは、進化し続けており、変化の中にビジネスチャンスがあるといえる。また、社会基盤としてのインターネットが、新しいサービスを創造し、地域社会に提供する基盤となっている。新たなビジネスモデルを創造し、行政に民意を反映させる鍵を握る事例といえよう。経済、環境、社会という異なる視点の融合が必要であり、持続可能な社会の実現に、行政がインターネットを如何に取込むかは大きな課題である。医療、教育、福祉、など地域活動にはかかせないツールになってきており、さまざまなソリューションを実現するための基盤と位置づけられる。

「なら県民電子会議室」は、平成18年11月に奈良県の事業としてスタートし、3年が経過した。この間、20の電子会議室（テーマ）を開設してきた。広範囲で、あらゆる分野に言及でき、熱心に議論が行われ、奈良県の現状把握と県政への提案、また地域活動に貢献ができたものと思われる。電子会議室を通じて、生まれたものは、

- ・ 県政への関心を深める
- ・ グループ活動の芽生え
- ・ 議論を深めて、多様性を認め合う

を得ることができた。自分の住んでいる地域を良くしたいという気持ちを育み、問題意識に目覚め、住民による新しい活動が芽生えてきた。全く知らなかった人同士が、自由に対話することにより、県民の県政に関する理解と関心を高め、県政に提案するだけでなく、議論を深めていくつかの地域活動が生まれている。1例として、地域の教育支援を目的にして生まれた団体や、「ものづくりを考える」の教室では、ビジネスチャンスを作り出す議論に発展している。

ネットは仕事、生活、遊び、学びを変える。この電子会議室で学んだことは、ネットワークは、単にデバイスをつなぐだけでなく、人と人とを結び付けるヒューマンネットワークを構築できることが分った。電子化と縁遠かった人間同士の付き合い方も変わりつつある。連絡や人脈作り、情報の在り方はウェブ上にある“コミュニケーションの場”が有効である。多くの人がリアルタイムに関わることができるのは、ネットが最適である。電子会議室は、人と人とを強固に結び付けることで、より良い社会コミュニケーションが期待できる。地域社会や奈良県が活性化して、多様性を認め合いながら、地域課題について協働して取り組み、一人ひとりが豊かになることを目指すものである。

社会の営みの様々な形式・規則・法律等の物理的制約を変化させ、こういう状況に耐えていくために、行政及び地域は新しい試みを求められている。この“コミュニケーションの場”を、如何に有効活用するかが問われている。多様性を支える不断の努力が成功の鍵と言える。

なら県民電子会議室は、3年間の実績を踏まえて、多くの情報や幾多のノウハウを蓄積することができた。豊かさを支える社会インフラとして、更に、奈良の未来へつながる戦略が必要である。アクセス数、発言数は毎年順調に推移しているものの、参加者が固定化したり、伸びとしては横ばいの傾向にある。県民の参加促進について、地域社会に根ざした電子会議室を目指して、更なる工夫が求められる。

II. 提言

各電子会議室でまとめた「提案」の項目を提言として項目のみ下記する。詳しくは、後記する各電子会議室の報告をご参照いただきたい。

1. T - 1 : ものづくり産業を考える

～ 奈良に興したいこんな産業～

(1) 人材の育成

今日、明日、未来の人材育成

事業と人との出会い

事業がなければ自分でつくろう

(2) 事業や技術の育成

金 - 価値の循環と価値観の変容

物 - 資源

時間 - 無駄排除と整合

4つのプロジェクト(1.5 次産業プロジェクト、産業拡大プロジェクト、産業活性化プロジェクト、新産業創出プロジェクト)を、地産地消を進める農商工連携や(産業クラスター)、商店街を拠点とした子育て支援、高齢者支援サービス事業などのソーシャルビジネス(地域クラスター)の育成のため、「オープンイノベーション」と「ラスター」の考え方を以て体制を明確にして推進する。

(3) 情報資源の育成

感性価値創造イニシアティブ

『伝統工芸』を新たな視点で『経営資源』としての視点から「ものづくり産業」へ

『奈良ブランド』の創出・構築

定期的な観光事業施策、事業者、県民のモチベーションを高める。

県の有るべき姿としてのグランドデザインに基づき、シビックプライド(市民の誇り)となり得るブランドづくり。ブランドマネジメントの推進。



2. T - 2 : 「もてなしの心」あふれる奈良

～ ひと声からはじまるコミュニケーション～

(1) まちづくりについて(道路、授乳室、観光案内所、観光地の整備)

(2) ホームステイ・観光客をさりげなく受け止められる取り組み

(3) 「もてなしの心」奈良に泊まってもらうには

(4) もてなしの心を学ぶ(街、人)

(5) 新しい観光スポット(映画ロケ地、燈火会)

(6) 「奈良のおもてなし」事業及び「奈良のおもてなし」ハンドブックについて

(7) 奈良もてなしリボン

3. T - 3 : 奈良の医療をよくするために

～ 受診者の立場から医療を考える～

(1) 救急医療センターの充実(奈良県の病院は、救急患者を見捨てるのですか?)

(2) 訴訟を心配することなく、患者を大事にする対応

(3) 病院関係者への感謝の気持ちでいっぱい

(4) 新型インフルエンザの発熱外来について

(5) 奈良の成人病健診体制の充実

(6) 奈良県の検診について

(7) がんサロンを県民に広げる

(8) 奈良の医療を良くする施策を考える

(9) 医療も産業としての認識が必要(生駒市立病院はどうなるのか?)

- (1 0) 診療報酬の不正受給について
- (1 1) 整備の遅れている南部地区の医療体制の充実
- (1 2) 奈良県の満足できる医療について
- (1 3) 地域住民の参加なくして地域医療の充実なし！
- (1 4) 『地域医療崩壊』の原因と対策について

4 . T - 4 : ホタルが飛び交う河川の範囲を広げよう ～ 河川・公園・道路を美しくするには～

- 『自然環境と人間生活の調和の取れた、街づくり』
 - 水質が BOD2.5～5.0 以上でも生息ができる。
 - 水温が高くても平気(30)。
 - カワニナというゲンジボタルの幼虫の餌になる巻貝が豊富にいる。
 - 1 大雨で大量に流される
 - 2 水温が低くないと生存できない
 - 3 水が綺麗でなければ生息できない
 - 幼虫がサナギになることのできる土が川岸にある。
 - ホタルの発光を妨げないこと。

III . 電子会議室の報告

- 1 (T - 1) : ものづくり産業を考える ～ 奈良に興したいこんな産業～

コーディネーター : (正) 馬場英彦
(副) 渡辺 孝

1 . はじめに

県の統計データで知れるように、個人の自己実現の場としての職場が県内に少なく、出稼ぎ奈良としての経済特性が現れている。ここから現れる諸事象の解消には、価値の循環の生じる仕組みをつくり育てることが重要である。その仕組みとは、「ものづくり」の時代は終わり、「ものごとづくり」に視点を移さねばならないのであって、県民意識としての「ものづくり産業を考える～奈良県に興したいこんな産業～」と題して、下記視点で会議室を開設し意見を求めた。

- (1) 人づくり
- (2) 事業や技術
- (3) 情報・ソフト・ノウハウ

2 . 提案

2 - 1 人材の育成

1) 今日、明日、未来の人材育成

企業外部リソースを活用した勉強会、グループ研究会への参加が促進される仕組みとして、参加者にスキルポイントを発行し、年度単位で社員総合ポイントに応じた減税処置を行う。
経営相談員を活用した、中小企業後継者の計画的育成（経営承継円滑化法）の啓発と支援。
学校教育レベルから仕事観（仕事の価値・楽しさ・興味）の育成プログラムの運用（経済産業省のキャリア教育）に当たり、現場教師と経験者の連携体制で支援する仕組みづくりを行う。例として、ミニ・ミュンヘン(http://www.mi-mue.com/about/about_mm.html)のような

取り組みがある。(育成プログラムの本質は興味と好奇心の火種を消さない、継続教育計画)
「伝統工芸」のスキルを『技能伝承』するためのノウハウを構築し、マニュアル化する。

2) 事業と人との出会い

経営者感覚を身に着けるスキルアップ策と共に事業主との交流の場を計画的に展開させる。
「乗せて、動き出したら、支える」を支援できるサポーターによる、企業、行政の3者の連携を強化。
女性の就労の場を創出すること重要である。この為にテレワークの普及と、キャリアデザイン及び子育ての支援を行う。

3) 事業がなければ自分でつくろう

3 セクター協働の協議会で誰にも理解できる事業体評価指標を明確化し、若者が主体的に参画できる生活基盤の安定したソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの事業形態を構築。
NPOが県下で年間100法人も誕生する今日現在、NPO法人が奈良県の活性化に繋がるように、その運営・活動に関する「設立」「活動」「管理」「情報」などの啓蒙・交流支援を行う。
県下2箇所あるインキュベーションの積極活用への呼びかけと参画徹底を行う。

2 - 2 事業や技術の育成

1) 金 - 価値の循環と価値観の変容

価値創出の成功事例を多く Web 上に公表し、他社の気付きを誘発させる。
誇れる多様な技術の維持、活用、発展を見えるようにし、他社技術との融合による新たな価値を生み出す仕掛けとしての情報の整理を行う。(技術の棚卸しと発掘)
企業の Web ホームページ内容の充実を図り、企業間の取引促進ツールとする。
データに裏付けされたマーケティングと本質美を追求した広義のデザインの奨励する。
消費優先経済の矛盾の壁を前にし、ユーザーの立場で「ものごと」を組み立てる基本姿勢の下に諸施策を計画し実行する。その一歩として、従来の蛸壺的価値観(1)を脱した新たな価値(2)の創出に取り組む。

1 参考 http://fp.cocolog-nifty.com/se/2007/01/post_9a39.html

『(NPO 法人アサザ基金の創設者)飯島氏は蛸壺(タコツボ)的な現状の社会で発生する課題は、断片的な対策では限界があり、視点を「総合化」することを説く。ソーシャル・イノベーション革命が目指す社会は、いきもの、人間の子孫、ともに暮らしやすい社会である。そのために、市民(生活者)のエネルギーを、「エンジン」(事業モデル)にて引き出す。』



2 新たな価値 - 4P から4C への視点で価値を創出する



2) 物 - 資源

観光の経済効果(税収に占める割合等)を数値化し県民のやる気を引き出す。

観光関連として各施設、店舗のホームページを見てやってくる国内外のお客共の利便性と内容の質向上の為、ホームページ作成ガイドラインを定める。

少なくとも駅前、メインストリートの景観は重要であり、個性あるまちづくりを住民一体で作り上げるべきである。店員、施設案内人の「人づくり」も重要。

環境問題をフォローの風として、農産物の直販所の整備と提案型販売で今後需要を伸ばす。膨大な材木資源を抱え消費の伸びない林業に対し、マンションでも一部屋は吉野杉の和室をつくる消費者への提案。「和室は住宅の宝物」

材木を直接消費者が購入するものではなく、建築メーカーとのパートナーシップを強める中で、磨き丸太、乾燥建材の供給など付加価値追求企業を支援する。

3) 時間 - 無駄排除と整合

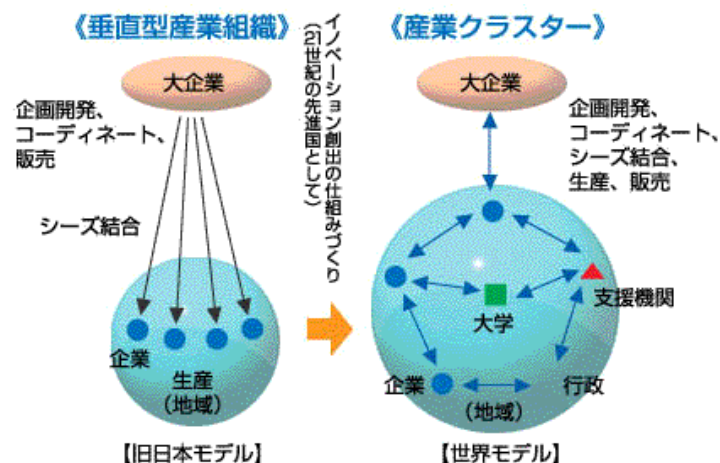
1.5 次産業プロジェクト 大和高原気候にふさわしい農産物を食生活提案型直販所を媒体に、三ちゃん農業を脱する 1.5 次産業に高める目標を定め、民間、企業、大学、行政で構成するプロジェクトをコーディネータの下に推進する。

産業拡大プロジェクト 近隣他府県の企業との連携も視野にコンカレントエンジニアリング発想で迅速な商品開発と流通を実現させる。

産業活性化プロジェクト 県知事は、「長期計画の下、構造改革が必要」と言う。産業の発展には社会ニーズに合うシーズを生出し高める投資が必須であるが、長期視野で地場産業の構造改革と活性化に取り組む。

新産業創出プロジェクト 観光の多様化・次世代医療産業集積プロジェクト(福島県)・ウェブデザイン村・動画コンテンツ発信、三方良しの CB・SB などのビジネスモデルを創出。

以上4プロジェクトを、奈良県地域産業活性化協議会(H20.11 始動 委員は知事、市町村長、各地商工会議所会頭、業界団体会長など)の下で、地産地消を進める農商工連携や(産業クラスター)、商店街を拠点とした子育て支援、高齢者支援サービス事業などのソーシャルビジネス(地域クラスター)の育成のため、「オープンイノベーション」と「ラスター」の考え方を以て体制を明確にして推進する。



2 - 3 情報資源の育成

経済産業省が示す、「暮らしぶりの向上と経済の活性化のため、日本人の感性を活用したものづくり・サービス活動を推進するにあたって取り組むべき事項」としての「感性価値創造イニシアティブ」(<http://www.meti.go.jp/press/20070522001/20070522001.html>) を把握し、自身のツールとして活用できるように、業界団体が率先してワークショップ形式で啓発し、成功事例を積み上げ広報を行う。



『伝統工芸』を新たな視点で『経営資源』としての視点から「ものづくり産業」への見直しを。
『奈良ブランド』の創出・構築を前提として、一般県民、県外国民、海外観光客から、そして年代・世代別（学生の視点からの考察）の『ならのイメージ調査・分析』を試み、人々の心に宿る「なら」を研究する。（例：『奈良の八重桜』名称の検証）
定期的な観光事業施策、奈良の魅力商品の経済効果の計測データを共有しあうことにより、事業者、県民のモチベーションを高める。
）県の有るべき姿としてのグランドデザインに基づき、シビックプライド（市民の誇り）となり得るブランドづくりを進める。その過程で生まれる事業名称、商品名称の使用要領のブランドマネージメントを行う。（参照意見 319・320・328）

3 . 発言の概略

- ・参加者数 53人
- ・発言数 423件

3 - 1 「人づくり」サブテーマに関して

- ・人材（財）育成(個人・チーム)を通じた「ものづくり」 投稿者12名 投稿件数 40件
- ・「起業」「起業家」を生み出す支援 投稿者10名 投稿件数 47件

●人材(財)育成(個人・チーム)を通じた“ものづくり”

- 44 商売の全ては出会いから。夢を持つことの大切さ、不可能を可能に変えるのは心構え次第。
- 48 十把一絡げでなく、地域特性に合わせた地域づくり・人づくりが行われれば良い。
- 124 担う人のスキル要素は真に大きい。一方、伝統工芸が実生活現場で触れ合っていく中で、流通に乗るか博物館入りかは時代の摂理。今は、その判断すらつかない状況。
- 255 南都経済センターがまとめた「人材育成に対する取り組み状況」に関する調査結果によると、企業が取り組む問題点のトップ3は「時間面」「費用面」そして「自社に指導できるスタッフがいらない（少ない）」。自社で出来ない課題を気軽に少人数で勉強できる場を提供しよう。

- 257 経産省の「感性価値創造イニシアティブ」がある。
 264 経営承継円滑化法の意義について。
 273 事業家「何を言っても無駄」との無力感で放置することのない、発言できる場が要る。

●「起業」「起業家」を生み出す支援

- 151 お叱りを覚悟で苦言を呈しますと、奈良県のこうしたマッチング事業を始め、いろいろな組織が「形式だけは整えるが中身がない」いわば箱だけ枠組みだけの制度だと思われます。
 224 経済産業省のキャリア教育の実証実験もあって、進んだ行政区では、民や産業が独自のモデルを構築し進めているところもある。新たなビジネスを開拓していく起業家が育つプロセス。
 227 (1)小中学校での基礎力養成など、(2)高校大学での自主性や自立性を持った活動や社会貢献への視点、よいビジネスプランを持った新事業や新産業創出を生み出すために、既存の活動(創業ゼミなど)とともに(1)や(2)について並行して進めていくのが長期的な県の人材育成にかかわってくるポイント。
 234 奈良新聞「金曜時評」に、本県の発展を阻害しているのは圧倒的に経済分野の指導者が不足していることを指摘している。県は企業誘致に努力するが、事業所数の減少には歯止めがかけられない。ならば事業家を増やすことに力点を置くべきとし、コミュニティビジネスの育成する取り組みをもっと指導すべき、と力説。
 235 正当な事業評価のでき、誰もが理解できる評価軸が示されれば、奈良式 SB/CB の立ち上げ支援などが円滑に行われるのでは。この種のビジネスが活発化している地域には「コミュニティビジネス中間支援機関」もしっかり動いている。
 307 教育の場に「仕事観」の育成が大切。一例として、「ミニ・ニューヘン」がある。

3 - 2 「事業や技術」サブテーマに関して

・「ものづくり」+「売り方づくり」	投稿者 4 名	投稿件数 5 件
・地域資源(農・林・工・商)を活かした「ものづくり」	投稿者 10 名	投稿件数 27 件
・製造・開発技術プロセスを追求した「ものづくり」	投稿者 8 名	投稿件数 68 件
・未来への奈良産業を考える	投稿者 16 名	投稿件数 40 件

金 付加価値の創出・価値の対価として潤滑

●「ものづくり」+「売り方づくり」

- 52 書籍「奈良の小さな会社が表参道ヒルズに店を出すまでの道のり」に見えるのは基本をきちんと押さえて、それを自社に応用して新規事業に成功されたという好事例。奈良にはこのような優れた起業家の少ないのが残念です。中川社長に続く人材が出てくることを期待しています。
 117 小さな企業は組織立った経営さえ十分とはいえず、企業相互のパートナーシップが必須。県下各社の商品、機能の全てを集めた展示会、商談会を年に一度程度開催して、企業間の出会いの場づくりはどうか。一般人の出入りも自由として、認識を広める企画。南都銀行主催で大阪で開催した報道があった。

物-資源

●地域資源(農・林・工・商業)を活かした“ものづくり”

- 53 いま木造建築材の主流は「集成材」。しかし、材の寿命が「木の寿命」でなく「接着剤の寿命」で決まってしまうとか、無垢材と違って再使用や再資源化が困難なので炭素貯蔵庫として不適切であるとか。
 135 観光産業が私たちの生活をどれだけ支えているのか全然見えない。県の税収のうち観光産業

の占める割合など聞いたことがない。その辺を透明化しないと県民は燃えない。

252 (吉野杉) それとも真面目に頑張っているものが報われない現在の仕組みに問題があるんでしょうか？永年に亘り山を守り続けてきた先祖がこの状況を見たらいったいなんと思うであろうか。こんなバカなことがあるものか...！と嘆くであろう。いったいこの国は何処へ向かって進むのか...。どうか神様。この国の山を森を林を杉を桧を守ってください。

256 林業の方は、消費者と直接繋がっていない為に消費の動向が判りにくく、永い消費不振からこれから先どうなるのか、不安に駆られるのはよく分かります。国産材の需要促進の為の試みとして、和風住宅建築を増やしてもらう為に「和室は住宅の宝もの」という提言をして和風住宅の良さを訴えて、和風住宅建築の増加を図り国産材の需要促進を考えています。

291 生産から消費までのトータルコストでは、吉野杉が最良とのユーザーアピールができるようにすること、そのためのボトルネックはどこにあるか、それを徹底して解決する。材料だけではない、建築家とのパートナーシップの下、奈良からの住居提案なんてどうでしょう。

時間-時間管理 無駄排除と整合性 (3M・5S)

●製造・開発技術プロセスを追求した“ものづくり”=仕組み

31 農産物の流通、加工を含めた 1.5 次産業に高める県の農業施策、近畿大学、地域関連企業との共同研究が望まれる。

55 私は、以前に林業の小径木を活用した木工製品を開発製造販売したことがあります。・・・もしよろしければ、製造ノウハウを無償で提供させていただきます。

56 中小企業様とお付き合いした経験から申しますと、なんとか製品が出来たがさて、これをどのように販売すべきか・・・と悩んでおられる企業様が非常に多く見受けられます。

60 新製品販売にはセット販売方法も効果的。

181 お金は事業を育てるエネルギー。何兆円もの市場も、やはり投資なしではなしえなかった。

232 有能な技術経験を持った人と事業を目指す意志を抱いた事業家及びこれに協力する職能集団の交流によるものづくり。

243 HP に商品として掲載する写真は、実物通のイメージの良い写真でなければ掲載してダメ。製造販売に対する心構えと細心の努力する決心が出来ない者は事業を止めた方が賢明。

244 どこの材木店でも十分に乾燥した材木は販売されていません。慣行から抜け出せず時代遅れの材木業界の中で果敢に立ち上がったのが、阪口製材所です。

85 今は資源利用の産業はさまざまな課題を抱えていて、経済優先とは言っても手放して開発できるものではありません。価値を生むソフトの工学的な手法も必要なものです。そういう知恵の産業を生み出す土壌が奈良には欠けているように思います。

99 今の奈良県の産業界には、諦めが先にたってしまっていて、何かちっちゃな枠にはめられているような感じがします。そのような風土を一新する必要がある。

105 まずやるべきことは、自分達の中にすでに存在している資産（知的資産も含めて）を、もう一度、しっかりと掘り起こす（棚卸しする）ところからしか、始まらないです。

●未来への奈良産業を考える

57 下流もしっかり開発しないと、上流で何をしてもさっぱりということだという、良い事例。

79 奈良の薬産業。健康志向に特化した薬として、日常生活のあり方、食事のあり方を含めたトータルな健康産業として育てる目標を示してはどうでしょう。美味しい薬膳料理も考えて、レトルトパックで販売するとか、結構アイディアは広がるのですが。

154 ソーシャルビジネスという社会問題をベースにして成立する事業のあり方など、欧州に学ぶ事が大変重要な時代となりました。

168 福島県が取り組んでいる「次世代医療産業集積プロジェクト」二番煎じと言われればそれまでですが、奈良県も同様の取り組みは出来ないのでしょうか？

186 関西西文化学術研都市は三府県の行政や多くの関係団体が参画・支援していますので、プラス思考で考えれば、大変素晴らしい環境と資源にめぐまれているのだと思います。

281 確かに SB/CB はある部分は企業と協働になりある部分では競合になる場合も出てきます。連携したビジネスモデル構築により、地域も含めた三方よしの活性策を生む機会として取り組んでいくことが重要ではないでしょうか。

294 作りっぱなしではなく、ブランド評価を適時適切に行い発展させることですね。

364 大阪市事業仕分けの実施について紹介。

371 「当事者の参画なしに政策無し」です。

3 - 3 「情報」サブテーマ議論抜粋

・ 伝統文化・工芸・デザインを活かした「ものづくり」	投稿者 6 名	投稿件数 17 件
・ ソフト・ノウハウを活かした「ものづくり」	投稿者 8 名	投稿件数 22 件
・ 中小企業が生きる道 これからの「ものづくり」	投稿者 5 名	投稿件数 25 件
・ 奈良発のブランドづくりを	投稿者 22 名	投稿件数 44 件

● 伝統文化・工芸・デザインを活かした“ものづくり”

10 奈良はどうしても宣伝が下手。一般の人にすれば、他産地と思っているものもある。

12 奈良の魅力商品の経済効果の計測ができているのだろうか。

270 8 月 18 日付の日経新聞「経済教室」・「イノベーション＝技術革新」ではない。技術中心主義から生活者の感性に基づく人間中心のイノベーションヘシフトしていかなければいけない。

● ソフト・ノウハウを活かした“ものづくり”

16 IT 企業の奈良への誘致、と考えます。セキュリティ万全のビルと、大規模高速通信さえ整えてやれば、奈良が日本のシリコンバレーにも成りうるでしょう。

17 前知事の時代に大和ハイウェイネットワークという光ファイバーによる高速大規模通信網を敷設し、映像のような大規模情報をやり取りするインフラを築き、県はまさしく通信事業者になったわけです。しかしそれを利用した事業者を誘致できていないのが現状です。

18 政府データでは都道府県の経済成長と、IT 整備普及率が比例しているとの見方がされている。もはや社会資本の領域に入ってきたわけで、道路整備以上に、地域社会で共用できるインフラ整備を積極的に推進すべき。大和路情報ハイウェイシステム見直しの時 NGN も視野に、小資本事業者、学校、自治体、自治会、NPO が利用しやすい環境を整備。

19 e—ならコンテンツ村

20 大和路情報ハイウェイは構築して 5 年が経過し、見直しの検討に入っている。民間の利用が進んでいない。ここが、行政の限界だろう。大和路情報ハイウェイの運用を民間に委託してはどうだろう。

28 目的が明確であれば、検索エンジンで探し出すことができますが、いわゆる奈良に行ってみたい、どのようなコースが良いかな、的な目的では大変不便。ここにコンシェルジュ機能を持ったサイトが望まれます。（これを行う事業家の輩出）

42 「語る」ことが文化を伝える上では必須。京都には沢山の大学と、その中に多くの芸術系の学部があって、これに伴う文化と産業に対する住民意識が大変高いと言われます。芸術は産業と密接な関係があります。むしろ洗練されたデザインが故に商品が売れるのですから、再考すべき時に来ていると考えます。

125 奈良のデータベースを利用者にとって価値の高いコンテンツとして提供すれば、観光・お持ち帰り・お取り寄せ等、今迄に無い切り口の新展開が見込まれます。そのようなコンテンツを生み出すためには、コンテンツ開発やソフト開発の技術と、若干の知恵が現状欠けているように思います。

● 中小企業が生き残る道・・・これからの“ものづくり”

7 小規模組織であることの強みを生かす経営があるはず

- 102 高市早苗経済産業副大臣が、奈良日日新聞のインタビューに答えた記事が目にとまりました。「生駒に富と雇用を生む IT の拠点づくりを」2009.5.31 小さいからこそ結束が必要。オープンイノベーションはその仕組み。
- 118 大学の先生と県下企業が連携して新技術開発を行い、企業が商品化に持ち込む、そのようなプロジェクトを「けいはんな新産業創出・交流センター」を介して実施するわけです。
- 123 経営について基本的に大事な考え方・不況対応哲学を体感するには、優れた経営者の考え方に学ぶべきものがある。
- 129 飛び回って人的交流、商品紹介を行っています。ホームページ、ブログ、会報誌を通じその模様の広報に勤め、商品のアピールをされています。これは、こだわりの商品を持つ強み、販売店が社長を呼び、知り合った客からまた輪が広がるのです。好循環が生まれています。
- 134 諸団体の機能は「気づき」と、企業相互のパートナーシップを促すことにある。したがって、諸団体の持つ責任は非常に大きい。
- 167 経営とは大変な努力を伴うもの、お客、パートナーをひたすら大事に思いがねばなるもの、その心がけしだい。それに気付くのは自身の体験と優れた人との交流。
- 182 経済大国といっても GDP のプラスが新記録を作ったときも、庶民は政治家の約束とは逆に非正規労働者が急増しました。生活密着型の産業構造にすべき。いまやこの分野の人材は不足し、継承者の高齢化に悩んでいる。
- 262 成功する事業とは（ 成功とは「成長性」「収益性」があり、「それを実現する」ということ。失敗する事業とは、事業の「ネタ」と「経営者」がすべて。
- 286 経営の組織や仕組みは時代とともに変えて行かねばならないものが、時にはタブー視され温存されることにより、致命傷にすらなることがあります。どのような組織でも、いつも「素直」な心で、見直し断断续断改革してゆく勇気が必要ということだと思います。

●奈良発のブランドづくりを

- 157 (毎日：6.24：経済観測より 寄稿者 野田由美子 横浜市副市長) どんなカッコいいブランドでも上からの押しつけるブランドが定着するわけがない。生活者であり問題意識を持つ市民たちが、自分の住むまちの過去・現在・未来に思いをはせ、立場を超えて議論し思いを深め、ブランドとして結晶化してゆくプロセスこそ最も重要なはずだ。・・・シビックプライド(市民の誇り)と呼ばれる。
- 158 むしろ市民の誇りとなるブランドが設定され、きちんと構築されて行くプロセスが設計されていけば、ブランディングすることによって、市民の意識も変わる機会となり得ます。
- 163 私は図書館という宝の山を活用し、ソフト開発のできる人材を育てることが急務であると考えています。なぜなら、奈良発ブランドは県民の誇りでなければならぬからです。
- 210 担当が代わっても、達成すべき目標理念が受け継がれるよう、ISO の考え方をベースに事業計画管理を行うよう合理化を図るべきです。
- 266 残念ながら、奈良発の商品は生産者の思い入れが先行し・・・嗜好品的存在の域を出ない状況です。奈良発ブランドに関して従来の間違った大仏商法ではなく全国的に市場を駆け支持されるためにはサービス精神を盛り込んだ「ものづくり」から始めなければならないと思います。
- 275 「コスト病」やコモディティー化への処方箋の一つに「オンリーワン」戦略がある。これは相応の兵糧の蓄えと根性、信念、行動力がものを言います。
- 319 「天然記念物知足院奈良八重桜」「奈良の八重桜」「奈良八重桜」に関連して。商品名使用の際のガイドラインの整備や管理など、ブランドマネジメントを徹底することが大切だと思います。県は推進するブランド計画とともに、知的資源の使用要領やルール作りなどソフト面も充実させる役割があるように思います。
- 320 奈良八重桜記念碑は世界に誇れる奈良発の超ブランドであると思うのですが、大変粗末に扱われています。
- 328 県が考えなければならないのはグランドデザインを描く責任があるというコトに尽きると思うのです。
- 383 目のつけどころが「モノ」以外にも広がってきました。県にとっても大切な施策。ここでの投稿を無駄にしないためにも、役に立つ提案をする意味でも、ブランドとは何かという意味

を共有したいものです。

4 . おわりに

「現場の参画無しに政策無し」と言われるように、現場、行政、第3セクターの連携が重要である。県下の新聞、雑誌、放送各メディアを媒体として、事業主体当事者が主体性を持って参画する、企業、行政、研究機関、NPO 協働の「ものごとづくり推進会議」を始動することが有効と考える。奈良版の地域クラスター、産業クラスターとして、具体的なプロジェクトを推進することを期待したい。

提案のあった案件を現実に顔を突き合わせて”ものづくり”について検討会を開催出来たことは、大変貴重な経験であった。さらに吉野まで足を運んでご教示された投稿者もおられ、今後の商品開発に一石を投じて頂けた。

また、お互いの技術を磨き、事業経営を情報交流する場として、奈良県立図書情報館の一室を借りて「勉強会」を数回にわたって開催することも出来た。

その他、電子会議室で案内を頂いたイベントに参加し、その感想を投稿頂いたり、いわば電子会議室というバーチャル世界（あの世）と現実世界（この世）を自在に行き来する中で人脈ネットワークが構築され、知恵の交換がなされてゆく姿は、必ずや奈良県の産業活性化に一石を投じる力となり得ると確信している。

下期も引き続き「ものづくり産業を考える」会議室を継続するに当たり、商工労働部を中心に多彩な推進・支援策を実施されているにも関わらず、その内容を県民は受信・理解が出来ていない。会議室への投稿に関連した情報は、その都度、該当する施策・情報の提供を期待している。

- 2 (T - 2) : 「もてなしの心」あふれる奈良

～ひと声からはじまるコミュニケーション～

コーディネーター : (正) 石川千明

(副) 玉置英隆 / 中西久夫

1. はじめに

この会議室では、「もてなしの心」とは何か。『さりげないもてなし』はどうしたら伝わるのか。「もてなし」をしている事を、やはり何かの形で知ってほしい。あと一歩踏み出して、もてなしをしている自覚が欲しい。その方法は？等、会議室名の「もてなしの心」あふれる奈良』のサブタイトルに『～ひと声からはじまるコミュニケーション～』を掲げ、県民一人一人が身近なことからはじめられる事を考えてみませんかという問いかけからスタートし、特にテーマは固定せず、もてなし側の現状について討議するという形で会議を運営しました。

尚、「もてなしの心」については、奈良・もてなしの心推進県民会議による、

「もてなしの心」推進行動プログラムが既にありますが、この会議室においてはあくまでも一般県民感覚でのフリー討議を重視することとしました。結果として「もてなしの心」推進行動プログラムの内容に沿わないところもあるかとは思いますがご了承ください。

2 . 提案

- (1) まちづくりについて(道路、授乳室、観光案内所、観光地の整備)
- (2) ホームステイ・観光客をさりげなく受け止められる取り組み
- (3) 「もてなしの心」奈良に泊まってもらうには
- (4) もてなしの心を学ぶ(街、人)
- (5) 新しい観光スポット(映画ロケ地、燈火会)
- (6) 「奈良のおもてなし」事業及び「奈良のおもてなし」ハンドブックについて
- (7) 奈良もてなしリボン

3. 発言の概略

(1) まちづくりについて(道路、授乳室、観光案内所、観光地の整備)

【24】まちづくりのコンセプトが見えてこない。平城遷都1300年祭に道路整備は間に合うのか？

【58】新しく開通した阪奈道路に続く高架道路の標識が解りにくい

→この高架道路は通ってみると驚くほど奈良の街を一望できる素晴らしい眺めです。

標識や走行上の注意などは来年の平城遷都1300年祭の際、初めて奈良に来るお客様でも解りやすくする必要があります。もちろんこれから来年度にかけ急ピッチで工事は進むと考えられます。

【36】JR奈良駅東口に降りて、やっと、あこがれ古都奈良へ来たんだと思い、駅頭に立って市内方面を眺めた時、あれー？本当に奈良に来たのかと一瞬不安が頭をよぎる事があります。その目に映る範囲には、「奈良」という文字はどこにも見当たりません。

【104】「観光案内所はこちら」という立て看板もありません。入り口の壁には石に彫られた看板は取り付けられてますが、近くまで行かなければ判りません。

初めて奈良駅に来られた人にはちょっとわかりにくい観光案内所かも知れません。

→観光客目線でのご意見を頂きました。住んでいる人には気付きにくいことだと思います。是非ご一考頂きたいと思います。

【44】奈良公園の中に授乳室を作してほしい

→「もてなしの心推進行動プログラム」に基づく取り組みの一環としてなされた「安心トイレプロジェクト」に「授乳室」(赤ちゃんのお世話室等)の案内もあれば良かったのではないかと思います。

奈良は赤ちゃんや小さい子ども連れの観光には厳しい観光地であることは否めません。

【64】奈良八重桜の石碑が建っている知足院を訪ねると、驚く事に石碑に近づいて写真を撮ることができません。

→対応できそうなら取り組むべき事案だと思いました。

【99】開放的な休憩所等が もう少しあるといいのでは？

→奈良は広々としているので、開放的な休憩所等が もう少しあるといいのでは？

具体的に「夏の暑い日に木陰や日陰での休憩所」と上げられています。

自然に調和した休憩所なら、いくらあっても良いと思います。

(2) ホームステイ・観光客をさりげなく受け止められる取り組み

【1】ホームステイを受け入れ体験から、国際交流にホームステイはピッタリという提案をいただきました。

→それに対して、その家で負担無くできる観光客へのおもてなしの具体例をいくつか頂きました。

【3】観光客とのコミュニケーションからのちょっと良いお話

【4】お茶どうぞ

【5】オープンガーデン

【7】温泉地での取り組み(あまやどりどうぞ)等。

県民それぞれ住環境は違いますので、各人の環境の中で取り組める事をやってみてほしいなと感じました。

(3)「もてなしの心」奈良に泊まってもらうには

【47】【48】で具体的な観光プランをあげていただきました。

→【52】高千穂の夜神楽」定時公演のレポートサイトのリンクから、奈良観光振興へのヒントを頂いたように思いました。

奈良の夜は早く、観光客にとって夜 8 時以降の行き先は本当にありません。

また神戸と奈良が阪神・近鉄で結ばれたことにより、日帰り観光が増えたと言われます。

夜間の観光スポット、プランなどを提案できるようなものがあれば、日帰りの奈良から宿泊の観光への転換も図れると思います。

【21】県民参加のもてなし

→このスレッドでも夜の奈良観光への不満が見受けられました。

【61】旅人が奈良に何を求めて来られるかを知り、その求めに応えるのが「もてなしの心」と思っています。その意味で、寺社のご協力を得られればうれしいですね。

【56】奈良は庶民の文化が育つ環境が難しい処と言えます。今でも仏教が奈良市政に全面協力をしているとは言えないところがあるようです。

宗教は庶民の幸福の為にある筈ですが、世界中どの宗教でも庶民の上に君臨しています。庶民の幸福の為に気軽に坊さんの説法を聞くのが本来の宗教の姿です。

全国の人が奈良に憧れ来てもらえるような奈良になる為には、仏教が庶民を下から支えてくれるような、開放された宗教になることも必要です。気軽に説法を聞く機会を広げて、権威主義から庶民に奉仕する仏教になるよう願いたいものです。

→【48】からのスレッドで、開かれた奈良観光の為には宗教界の協力も必要なのでは？という議論がありました。

奈良＝神社仏閣というイメージがある以上、もてなしメニューに含まれるのは必須です。

平城遷都 1300 年祭に向け、さまざまな取り組みが期待されています。

(4) もてなしの心を学ぶ(街、人)

【16】「おもてなし」って云うのは、ホスト側が、どんなに「自分はもてなししている」と思っている、ゲストがそう思わないとこれは「おもてなし」とは言えません。つまり相手が有っての事なで、また、この人は感激されても、別の方は何とも思わない、と云うケースも有り得ます

→「もてなし」の難しさを垣間見ました。

今回の会議室の展開の難しさもこのご投稿に集約されているように思います。

各々もてなす気持ちには変わりなくても、方法や形は様々です。

以下の様な他の市町村の「もてなし」を知り、自分たちの生活にも反映させていく事は素晴らしい事だと思います。

【22】「町家の人形めぐり」

→投稿者の「町家の人形めぐり」というイベントを通してのもてなしの心について、抽象論でなく「きっかけ」が必要というテーマで話が続けました。

【74】『もてなしの心』は庭師に学ぶべし

→大和の三名園を写真付きで紹介してくださいました。

お庭に押しつけのない「もてなしの心」を見せて頂きました。

【162】今井町(橿原市)での事例

→投稿者がブログで「今井に学ぶもてなしの心」を紹介してくださいました。

(5) 新しい観光スポット(映画ロケ地、燈火会)

【91】韓国ドラマ「スターの恋人」のロケ地マップ

→観光のひとつの目玉として映画のロケ地を使われている県は多いです。

奈良でも 2008 年放送の「鹿男あをによし」、韓国ドラマ「スターの恋人」などあります。

放送が終わってからも DVD などを観て訪れる方もいらっしゃいます。

【93】のように「平城宮跡の石舞台はどこにありますか？」というような例も有ることがわかりました。映像の都合で移動が解りにくく、同じフィールド内に感じてしまう事例があるのでしょうか。

来年行われる「第1回なら国際映画祭」に向け、一層映像ファンから奈良に注目が集まるのは必至です。この機会にロケ地情報などを一元管理し、情報発信していくことも良いのではないのでしょうか。

【128】なら燈花会

→手作りのイベントが奈良の街に合っている感じがうかがえました。

来年の8月は平城遷都1300年祭、映画祭、燈火会と三つ巴のイベントがあります。

この時が奈良観光にとって非常に重要なポイント（いかにリピーターを増やせるか）になると思います。

（6）「奈良のおもてなし」事業について

【9】観光協会や商工会議所ではなく、お役所がこういった冊子（「奈良のおもてなし」ハンドブック）を配っているということに違和感を覚えた

→会期中、「奈良のおもてなし」事業についてのご意見を多数頂きました。

とくにこの「奈良のおもてなし」ハンドブックは、サービス業ではかなり基本的な事柄なのにあえて小冊子にして観光業者に配る意味はあるのかという厳しい内容の投稿がありました。

こちらは奈良ならではの取り組み方を中心にした小冊子なら良かったかもしれません。

ただ【49】投稿の中に『「奈良県人はとつきにくい」が、親しくなるにつれ良さがわかる」といわれます。逆にいうと、心根は優しいのに、社交下手なので「無愛想」「不親切」に見えてしまうのでしょうか。「見た目から変えてみる」というのも一法ですね。』とありました。

確かに「大仏商法が観光不振の原因」と言われている現実も一方ではある事は確か。

今一度、おもてなしをする側が襟を正す意味では良い機会になるように思いますが。

【73】事業評価

→「奈良のおもてなし」事業そのものについて事業評価をしてみても？と、同等の意見がありました。

（7）奈良もてなしリボン

【6】もてなす側も、もてなされる側も負担を感じることなく「ひと声」掛けやすくするため、地元の私たち（もてなす側）がこの「奈良もてなしリボン」をつける。

→もっと積極的にコミュニケーションとりやすい方法はないかということで、「奈良もてなしリボン」の提案から議論が会期中続きました。

「奈良もてなしリボン」のイメージについて

→【20】私が「リボン」を思いついたのは 拉致議連のみなさんやそれに賛同されるみなさんがつけている「青いリボン」がヒントです。

<賛成意見>

【8】奈良もてなしリボンをつけている人には話しかけていただいていいのですよ。ということにすれば外人さんも気軽に声かけられ日本旅行中に奈良でいい会話ができて、いいもてなしを受けた。というようなケースがでてくるのでは。奈良もてなしリボンはさりげなくつけ、さりげなく会話のきっかけになるといったものであって欲しいですね。

【37】町中を歩いていて、気軽に尋ねる事ができる人が多勢いることは素晴らしいことです。

【70】道案内というのはそこそこ“需要”が多いのではないのでしょうか

< 反対意見 >

【43】近い例としては赤い羽根、緑の羽根。青のバッヂや、白のリング等も、大衆迎合的に使われてしまってる印象があります。

【162】私は「もてなしリボン」には賛成できません。県の作ったバッヂとどこが違うのか、未だに納得できないからです。

【110】「もてなしリボン」と、「おもてなし事業のバッヂ」とどこが違うのか。

【107】【73】「もてなしのリボン」と「おもてなし事業」の比較から県の事業評価にまで発展していきました。

→ 総括して

「奈良もてなしリボン」の賛成派はさりげなさ、ちょっと話かけやすい雰囲気作りのためのもの、という個人の意思表示に重きをおかれている方が多く、反対派は、さらなる税金投入への疑問、リボンを付ける人はある一定以上の奈良観光の知識があり、観光客への質問に答えられるくらいのレベルが必要なのでは？という制度的に確立されたものを求められる事、また県の「おもてなし事業」との比較からそれが制度として必要なのかというご意見が多かったです。

行政としては、既に奈良・もてなしの心推進県民会議による、「もてなしの心」推進行動プログラムによって様々な事業計画をされていますが、そこにまだ参加できていない県民に、あと一步踏み出す勇気のような位置づけで「奈良もてなしリボン」は良いアイデアだと感じました。

4 . おわりに

会議室はテーマが「もてなしの心」と非常に抽象的でしたので、終始、投稿者それぞれの価値観やもてなしに対するポイントの置き方などに論点が左右され、討議するポイントが絞り込めず大変難しいテーマだったように思います。20年度下期のように「平城遷都1300年祭」という具体例を置いての討議のほうが話の展開がしやすかったかもしれません。

不景気な時代が続き、少ない予算の中で奈良が「もう一度訪れたい県」になれるかどうか、その為には観光行政だけでなく、県民一人一人の意識改革も必要なのではないかと感じました。

来年スタートする平城遷都1300年祭での「もてなし事業」の成果にも多くの県民も関心を寄せています。

今回、なら県民電子会議の討議を通して、さまざまな「もてなし」の形を見せて頂きました。これから県民一人一人が個人で、そして個人と行政がどのように呼吸を合わせて奈良県の「もてなしの心」を奈良県を訪れる方々にあらわしていくのか。課題は多いですが会議室でのポジティブなご意見をみるにつけ県民意識の変化を感じ、これからの奈良県の観光県としてのあり方に大いに期待できるのではないかと思います。

最後になりましたが8月より異例のコーディネーター交代という事になり、7月までの討議の流れを把握しきれなかった事を深く反省しています。しかしながら、私自身も一県民としてどのような「もてなし」ができるか考える良いきっかけとなり感謝しております。

このあと21年度後半のテーマとして「奈良の未来を創る・～平城遷都1300年祭を成功させ、奈良の魅力を語る～」がありますので、この中でも「もてなしの心」という観点からも引き続き討議されることを希望して終わりの言葉にしたいと思います。ありがとうございました。

- 3 (T - 3) : 奈良の医療をよくするために

～ 受診者の立場から医療を考える ～

コーディネーター : (正) 吉岡 敏子 / 馬詰 真一郎

(副) 伏見至 / 木村新一

1 . はじめに

平成 20 年度下期に「受診者の立場から医療資源を考える」で始まった医療に関する会議では、参加者が少なかった。これはテーマが難しく参加しにくいという意見が出て、21 年度上期は「奈良の医療をよくするために」と比較的意見の出しやすいテーマに改められた。このことで前回よりは参加者が増えて会議もにぎわってきた。しかし、またもや、たらいまわしの事件が起こったり、県立病院の医師不足、看護師不足の状況は変わりなく、それに加え新インフルエンザの流行、発熱外来、診療報酬の不正受給の問題など医療問題は毎日のマスコミの話題に事欠かないほどになっている。

2 . 提案

- (1) 救急医療センターの充実 (奈良県の病院は、救急患者を見捨てるのですか?)
- (2) 訴訟を心配することなく、患者を大事にする対応
- (3) 病院関係者への感謝の気持ちでいっぱい
- (4) 新型インフルエンザの発熱外来について
- (5) 奈良の成人病健診体制の充実
- (6) 奈良県の検診について
- (7) がんサロンを県民に広げる
- (8) 奈良の医療を良くする施策を考える
- (9) 医療も産業としての認識が必要 (生駒市立病院はどうなるのか?)
- (10) 診療報酬の不正受給について
- (11) 整備の遅れている南部地区の医療体制の充実
- (12) 奈良県の満足できる医療について
- (13) 地域住民の参加なくして地域医療の充実なし!
- (14) 『地域医療崩壊』の原因と対策について

3 . 発言の概略

- (1) 救急医療センターの充実 (奈良県の病院は、救急患者を見捨てるのですか?)

3 月に生駒市でたらいまわし (6 病院) の事件が発生し、奈良県人が大阪大東市で亡くなった。これには生駒市立病院の建設問題や救命救急センターの医師不足も関与しているのではないかと受け入れ先を救急隊員が探すという前時代的なことは許されない。受け入れ先をデータベース化するシステム作りが先決、これには行政・医師会・通信業者の協力が必要。オーナーである行政の取り組みは進んでいるのだろうか?

・「救急医療センター」は体制の整った医療施設ではありません。

システムがあってもたらいまわしがあるのは必要な医師が必要なところに配置されていない。これを考えてくれる役人は他府県で教育を受けた方ばかり。奈良県で生まれた人間が奈良県で勉強し、奈良県民のために働いてくれる役人を育てていかなければだめではないか? 全国で唯一国立総合大学がない奈良県では奈良県立医科大学・国立奈良先端大学・国立奈良女子大学・奈良県立大学・を統合し、国立大学法人・奈良国立大学として、再出発することを提案。

・この意見に対して医師の適正配置ができていないのは、奈良に総合大学がないからではなく、全国でもたらいまわしがある。これは研修医療制度が新しくなり個人が自由に研修する病院を選ぶようになったのが医師偏在の一因。救急医療を重視するなら医療関係者の待遇改善がまず必要。

- (2) 訴訟を心配することなく、患者を大事にする対応

超ハイリスクの妊婦が地元の産院からの紹介状を持って医大へ行ったにも関わらず、患者の心配をするよりも、訴訟の心配をするような対応で、結果的には流産された。一人でも多く安心して医療を受けられ、子供が産まれる環境を作っていただきたい。奈良県の周産期医療は大丈夫でしょうか？病院の不祥事を掲載して得をするのはマスコミぐらいではないか？「マスコミ」の横暴に巻き込まれ「ブレ」ないで、医師と患者は医療を通じて信頼して「健康」と「命」を守り・育てることが大事である。

(3) 病院関係者に「ありがとう」と感謝の気持ちでいっぱい

10日間入院して、手術のために担当医、麻酔医、手術室の看護師、病棟看護師、薬剤師、レントゲン技師、検査技師など多くの職種のチームワークで成り立っていることを実感して、患者の気持ちになって対応してくれた嬉しさ、感謝の気持ちを忘れてはいけません。病院関係者が一生懸命働いている姿はマスコミでは分からない。一旦入院や救急の受診が決まると、その後の対応は看護師さんはじめ頭の下がる思いがするが最初の対応でがっかりすることもある。患者の不安を取り除く対応がほしい。

(4) 新型インフルエンザについて

5月の連休明けぐらいから始まった発熱外来、最初は3箇所からスタートして、電話を10台あまりも置いて24時間体制。夏になって治まるどころか、益々患者は増えてきている。全国で何万人もの患者がでているが、奈良県のどの地区で何人ぐらいなのか公表してほしい。新型インフルエンザ流行ピーク時に医師不足が懸念され、救急外来閉鎖などの影響がでてくるかもしれないようだ。沖縄県では軽症者は地域の開業医などが休日や夜間でも診療する体制がスタート。奈良県は、勤務医より開業医の方が多そうだが準備は進んでいるのだろうか？

(5) 奈良県の成人病健診体制の充実

奈良県にはがんセンターがないため成人病健診ができる公的な機関がないのではないかと懸念されている。公的な機関を造る運動を起こせばいいかが？健診（健康診断）のような簡単なことはなるべく地元の開業医さんで済ませていただきたい。病院へ行くのを自粛して、病院勤務医の負担を軽くしてはどうでしょうか？

(6) 奈良県の検診について

奈良県のがん検診率が25%程度と低い（これ以下に低い検診率のがんもある）のを一挙に50%にするにはどうすればよいのでしょうか？思い切って、検診費用は無料、検診日の制限なしで、土曜、日曜でもできるようにすれば可能でしょうか？

たとえ無料でなくても県と市町村が協力して計画を立て、がんのみでなく生活習慣病についても検診をおこなえば受信者の方はある程度負担があっても受けられるものです。皆で検診を計画してもらえよう県や市町村にお願いしましょう。

奈良県は全国で唯一遅れていた「がん対策推進計画」も、この10月にはできる予定です。今現在「がん対策推進計画（案）」が発表されています。10月15日までが意見募集中です。みなさんこぞって応募してください。

(7) がんサロンを県民に広げる

「がんの告知を受けた・・・治療は終わったけれど再発のことを考えると・・・家族ががんになった」そんな思いを同じがんの体験者と話したい。うなずいて聞いてくれる人がいる。自分一人ではなく、同じ想いをしている人がいると思うと前向きになれる。「がん患者サロン」が2箇所で開催されています。毎月第2水曜日（午後1時～3時）は「ほっとサロン飛鳥」国保中央病院（近鉄田原本からバスで5分、または黒田から徒歩10分）毎月第3火曜日（午後2時～4時）は「くつろぎ」県立奈良病院（近鉄尼ヶ辻から徒歩10分）ぜひ一歩踏み出して参加してみませんか？

(8) 奈良の医療を良くする施策を考える

医療を良くするには良い医者が集まる地域にすること。奈良は条件がそろっているのか？県立医大はどうでしょうか？十分にそろっているとは思われない。

・奈良医大の入学者が県内31名、県外69名、あまりにも少ない県内学生。勉学が終われば当然自分の県にもどるのでしょうが、県の方で卒業後は奈良県に残るという条件で、何人かの学生の奨学金を出していると聞いたことがある。思い切って拡大してはいかがでしょうか？

・奈良医大の今年度の合格者の33%が女性。医療現場の宿直勤務は公立病院では36時間勤務になっているようだ。この勤務体制は女性に向かない。女医さんの場合、1日8時間の昼勤務のみと県の条例で決めればどうか？奈良県に復職希望の女医さんがたくさんあつまるとはならないでしょうか？ぜひ実行に移してください。近い将来50%になることは間違いない。

・漢方の発祥の地が近い橿原にあるのに漢方医学の中核の1つになっていない。東洋医学の研究所を誘致し、奈良が東洋医学の日本の中核にしてはいかがでしょうか？

・奈良は大阪・京都のベッドタウンとして発展した経緯があり、医療も大阪や京都に依存している。将来定年者が増え、若年層が増加しなければ税は落ち込み奈良県自体が立ち行かなくなるのではないか。そのためにも若者が定着し、医療の面でも若い方が意欲を持って働ける環境をつくり、医療の先端技術を習得する施設の充実が必要である。

(9) 医療も産業としての認識が必要(生駒市立病院はどうなるのか？)

公設民営型で計画が進められている生駒市の新市民病院に対して医師会が反対しておられるが、これは県内の医療産業を発展させることを否定しているように思われる。もう一方で266病床→210病床の問題や東生駒駅前2つの候補地の問題が論点になっているが、真相は「日本医師会」対「徳州会」の利権問題ではないでしょうか？

(10) 診療報酬の不正受給について

新聞やテレビで、大和郡山市内の病院が診療報酬の不正受給やそれにも増して手術の必要性がない良性の腫瘍を「がん」と偽り、手術をして大量出血により患者を死亡させていたと報道。死亡診断書さえ偽造したとか。奈良県でこのような病院があったことは、非常に恥ずかしい。当局は再発防止に努めてほしい。

(11) 整備の遅れている南部地区の医療体制の充実

奈良県の医療問題を語るとき、いつも南和医療圏が問題になる。奈良県は奈良市、東和、西和、中和、南和の5医療圏に分けられている。がん対策推進計画では中和に県立医科大学付属病院があり、奈良市には県立奈良病院、市立奈良病院、東和は天理よろづ相談所病院、国保中央病院、西和は近大奈良病院になっている。南和医療圏には拠点病院がない。がん患者はいないのだろうか？そんなことはないでしょう。どうすれば良いのでしょうか？見捨てるわけにいかない。

(12) 奈良県の満足できる医療について

・候補者に公開質問状を出しましょう。

「奈良県がん対策推進計画」が奈良県以外の都道府県ではすでに実施されているのに、奈良県では計画さえもできていない現状を県民に知られていない。どうすれば知ってもらえるか。今回の選挙を利用して全候補者に「がん推進計画」の未策定について、どのように捕らえているか考えを述べてもらえるよう質問を公表するのはいかがでしょうか？

・行政が現状に甘えていませんか？

奈良県民は奈良県でなくても、京都や大阪で、用が足りるから、必要に迫られていない、それに行政が甘えている気がする。

・医療の現場は他府県に劣っていません

奈良の医療が遅れているような意見が多いが、決してそうではない。夜8時ごろ腹痛で、ある病院へ電話をして受診し、とても親切に対応してもらい的確に処置していただいた。待っている患者も10人ばかり、電話も引きもきらずに鳴り、テレビ番組「救急病棟」そっくりな状態。この様子を見ていると医療そのものは他府県に劣っているとは思われない。問題は体制を維持する

こと、行政と現場との連絡を疎通にすることだと思う。

- ・ 奈良県のお医者さんの健康状態は大丈夫ですか？

日本医師会が実施した勤務医 1 万人を対象にした健康に関するアンケートでは勤務医の 1 2 人に 1 人が「うつ状態」で精神面の支援を必要としていると分析された。休日や睡眠時間の少なさに加え、患者からのクレームの矢面に立たされることへのストレスが大きいとして、医療機関に医療事故や患者とのトラブルでは組織的な対応が必要であると新聞に掲載された。

- ・ がん情報センターのホームページに奈良県の公開講座の案内などの情報も掲載してください。他府県と比較して、遅れている現状に落ち込みます。

(1 3) 地域住民の参加なくして地域医療の充実なし！

奈良県は、開業医は多いのですが、総合病院等の勤務医数が極端に少ないのが実情です。勤務時間が長く、医療トラブルに対するリスクが大きい勤務医を、若いお医者様が避けるのが原因ではないでしょうか？ また、産婦人科・小児科・外科・脳神経科といったリスクの高い分野の医師数激減という『医師偏在』と南和地域の医療体勢の脆弱さは大きな問題です。従って、奈良県の地域医療を守るためのキーワードは、下記の 5 点です。

- 『医師不足』の解決
- 『医師偏在』の解決
- 『勤務医リスク』の軽減
- 『公立病院の赤字経営』の見直し
- 『南和地域の医療体勢の脆弱さ』の解決

これらの医療問題を解決するためには、行政・医療従事者・県民（患者）が三位一体になって知恵を絞る必要があります。

(1 4) 『地域医療崩壊』の原因と対策について

『地域医療崩壊』の原因と対策を思考しました。三位一体の『地域医療改革』を県民参加で実現しましょう！

(A) 公立病院の現状を知る

- 医師は偏在もしているが、不足している。
- 看護師や医療・福祉従事者が不足している。
- 病院赤字と財政縮小で、公立病院の統廃合が多発している。
- 市町村合併が、公立病院の統廃合を加速している。
- 指定管理者制度で公設民営化が進んでいる。

(B) 公立病院の役割を知る

- 現状；病床再編・病院の統廃合・指定管理者制度導入（公設民営化）が主流です。
- 過去；無医村地区を無くすため、地域自らが公立病院を開設した。
- 未来；地域医療文化の発信基地であり地域づくりの拠点となる病院が求められる。

(C) 保健・医療・介護・社会福祉の連携・統合を地域住民と協働の活動をする。

地域（住民、首長、行政、議会、医療従事者、保健・福祉従事者、患者など）が協働して地域医療を良くする活動をする。

- 保健・医療・介護・社会福祉のハードとソフトは地域のインフラ（基幹）である。
- 地域医療の充実が安心・安全な暮らしの基礎だが、活動なくして充実はありません。
- 住民参加で地域医療（保健・介護・社会福祉を含む）の実態調査を実施する。
- 学びや事実を知る事の過程が活動の元となる。
- 科学的データをもとに政策作りや政策を提案する。
- 地域医療ボランティアの育成。
- 地域医療を学校教育に取り入れるなど。

安心で安全な地域づくりは、地域住民の参加が不可欠です。奈良県の地域住民、頑張ってください！特に、十津川・吉野・五條・御所・葛城の南和地区にお住まいの皆様、地域医療の改革に立ち上がりましょう！

5. おわりに

今回の約130件の意見では20年度下半期に出たのと同様傾向で、医療崩壊の問題、産科医師不足の問題、周産期医療の問題がある。しかしこれは奈良県だけではなく、日本全体の問題でもある。奈良県の医療には満足できないことも多く、いろいろな意見も出てきている。しかし、ひとたび入院したり、受診した場合は現場で働いている医療関係者の方々には、頭の下がる思いをする人は多く感謝されている。医療関係者が働きやすい環境をつくるのは行政の仕事であると思うが、一般市民や患者はそこで何ができるかを考えるとともに、感謝の心を言葉や態度で表し、労をねぎらわなければならないと思う。



- 4 (T - 4) : ホタルが飛び交う河川の範囲を拡げよう

～ 河川・公園・道路を美しくするには～

コーディネーター : (正) 松本清二

(副) 中川 保 / 赤塚秀一

1. はじめに

たくさんのご意見、有り難うございました。いろいろな取組から意見をいただいています。ホタルのような小さい生き物ですが、地域の環境にうまく適応しこれまで生き延びてきた命だと考えます。そう言うことでは、私たち人類も同じように適応し、あるいは環境を創造し命をつないできたと思います。ホタルや多くの生き物と違うところは、人間は自然環境をコントロールできるという大きな勘違いをしてしまいました。そして、今になってうろたえているのです。小さな命や自然に対して、出来るだけ負荷が少なく、私たちにとって生活しやすい自然環境を持った街の姿を議論し提起していけたらと思います。テーマを立ち上げました。

2. 提 案

「自然環境と人間生活の調和の取れた、街づくり」を提案しました。以下の内容は、会議室でのコメントや入室者への回答で記載した内容をまとめ、具体的な提案事項を報告します。

水生ホタル、特にゲンジボタルは綺麗な水でなければ生きられないとか水温が低くなければ生きられないといった知識が大勢を占めています。確かにそのような状況でしか生息できないゲンジボタルが、地域によって生存しているのも事実だと思います(地域個体群)。それに対して、それとは異なる環境で生きる地域個体群もいます。それが奈良盆地内に生きるゲンジボタルです。

我が国の都は1300年前に、藤原京から平城京へ遷都されました。遷都の原因の一つに、人口の過密による都市環境の悪化が言われています。藤原京は、京内で6万人もの人達が生活をしていました。京内に人口水路が掘られ、飛鳥川や寺川の水が流されたと考えられます。人々は水路に生ゴミをすてたり時には人間の糞尿が流されたりすることも、日常茶飯事であったことは容易に想像できます。でも、ホタルは飛んでいたのです。

地域には地域の環境があります。だから人間でも地域によって異なる文化、習慣や言葉まで違って来るのです。小さな生き物の昆虫でもこれは、同じです。何千万年も前から環境に適応して命を繋いできた生き物です。きっと私たち人間のこれからの生活環境のあり方を決めるヒントがあると考えます。

人間も生き物として、この地球で命を繋いでいる限り、他の生き物と共生をしていかなければならないということを実感しなければなりません。その上に立った生活環境作り、言及すれ

ば街づくりを行わなければなりません。

炭酸ガスの過剰排出による地球温暖化とそれに伴う様々な異常気象、コンクリートやアスファルトといった建築材料の過剰な使用による大都市部のヒートアイランド現象や様々なガスの使用によるオゾン層の破壊等、人類の生産（？）活動は、換言すれば地球という星の破壊活動のようにしか見えません。

そこで、ホタルという奈良盆地ではもっとも身近な生き物との共生を考えた街づくりを行うことによって、それほどハードルの高くない環境基準が組み立てられ人間と自然環境の調和が取れた都市環境が創造できると思います。

具体的な内容を以下に示します。

飛鳥川水系のゲンジボタル（飛鳥や橿原に生きるゲンジボタル）は、水温が 30 度を超えても BOD が 2.5 以上でも元気に毎年飛び回ります。しかし、数は減少してきているような気がします。

水質が BOD2.5～5.0 以上でも生息ができる。

水温が高くて平気（30℃）。

カワニナというゲンジボタルの幼虫の餌になる巻貝が豊富にいる。

カワニナについても様々な議論があります。大雨で大量に流される、水温が低くないと生存できないとか水が綺麗でなければ生息できないなどです。

1 大雨で大量に流される

大雨が降って大量に水が流れても、石の下やコンクリートの割れ目などにかくれて心配するほど流されません。

2 水温が低くないと生存できない

飛鳥川で観察したところ、水温が 32℃ のコンクリート底でも元気に這い回っています。

3 水が綺麗でなければ生息できない

かつて藤原京の水路には、たくさんの生ごみが流れていたことでしょう。私たちの子どもころも川にスイカの皮、ジャガイモやトマトが捨てられていました。そして、それにたくさんのカワニナやタニシが付いていたのを覚えています。決してカワニナもきれいな川でなくてもいいのです。

幼虫がサナギになることのできる土が川岸にある。

幼虫が川から上がり、空気呼吸を始めるころ土の中でサナギになります。だから岸の近くには土が必要なのです。サナギは、すでに空気呼吸をしていますのでこのときに水に浸る、即ち岸などの低い場所でサナギになると溺死してしまいます。水に浸らない場所に土を入れる必要があります。

ホタルの発光を妨げないこと。

ホタルが光るのは、求愛行動です。日没から 2-3 時間、オスがメスを求めて発光しながら飛びます。メスは、交尾のために木の葉やクサにとまってオスを呼ぶ発光をします。オスがメスを見つけて交尾を終えると、メスは産卵場所を求めて夜が明けるまえまで飛びます。

街灯などの光は、ホタルにとってしばしば障害になっています。しかし、街づくりにとっては治安上街灯は不可欠です。上野公園や皇居では、街灯の高さを 1 メートル程度にしてホタルに配慮した都市造りを行っています。

これらのポイントさえおさえておけば、ゲンジボタルは再生できます。

ゲンジボタルを再生することは、自然環境と人間生活の調和を考えた街づくりの一步であると思います。

3. 発言の概略

提案は「街づくり」でしたが、投稿された内容はホタルについての思い出話や思いが中心でした。

- ・ 私が小さい頃は、夏休みの夜に父親と兄弟で虫取り網を持って川沿いの県道を歩きながら螢の獲得を試みていました(実際は遠くに飛んでいるのは見えますが、網で捕まえられる範囲に飛んでくるのはごく僅かでした)。
- ・ ゲンジボタル発見を読みますと、6 月に螢が飛んでいます、夏休みに螢が飛んでいたの

は平家螢なののでしょうか、それとも記憶違いなののでしょうか？

- ・ 水がきれいになってきたので、ホタルを放流しようと考えている友人から、幼虫などを養殖・販売しているところがないかと聞かれました。どこか販売しているところがあるのでしょうか？
- ・ 昔はほたるが身近にいたと祖父母からよくきかされたものだが、なぜいなくなったのか？ 農薬のせい？ 川の汚れ？ でも昔は今みたいに行政サービスも発展途上で、今のようにゴミの収集も無かった筈だし。ゴミは川に平気に捨てていたと思うし。

以上のように、ゲンジボタルをキーワードにすると感傷的な話題が多くなりました。これはこれで、ホタルを好きな人にとってはどんどん入っていけるところだと思います。しかし、この話して続けられるのは飛ぶ前だけだと思い、次に仕掛けました。

仕掛けは、「ホタルの生息調査をしたら。」の着信がきっかけです。そこで、コーディネーターから以下の提案を発信しました。

<仕掛け1> ホタル調査（水生・陸生に関係ないホタル発見報告）

早くも7月、夏休みも始まります。奈良盆地の水田に水が張られ、まるで湖のように大きな人工池は、緑のジュウタンにかわってしまいました。

そろそろ陸生ホタルの代表であるヒメボタルたちが登場してきます。このホタルは、水が無くても大丈夫です。ただ、地面が湿っていないと餌となる陸生の貝が住めません。これから9月中旬まで、公園、林や里山で生活するヒメボタルをみかけられた方の情報をお待ちしています。

どんな場所で見つけたか（水辺であれば水生のホタルです。林や山中で水辺がないようなところは、陸生のホタルです。）林、公園や神社の境内など具体的な住所でもかまいません。ただし、住所については生態系保護や個人情報の観点から公開いたしません。

何時頃、何匹ぐらい見つけたか（ホタルの種類によって発光する時間帯がだいたいあるようです。個体数は地域のホタルの生息数を考察します。）

この会議室はこれからの街づくりについて、私たち人間と自然環境（水環境や陸環境）のより良い関係の指標としてホタルという生き物を提案します。ホタルがすめるような、水環境・陸環境を目指す故郷の街づくりについてどしどしご意見をお寄せください。

この発信に対する回答はゼロでした。

<仕掛け2> ホタルで街づくり（ホタルの飛ぶ時期を過ぎ、ほとんど投稿が無くなりコーディネーターによる投稿をふやし街づくりの話しに持っていくように方向付けをしました。）

- ・ 大和川は、3.7 mg/l となり昨年よりも1 mg/l 改善しました。結果として、綾瀬川（埼玉・東京）より0.2 mg/l だけきれいになりました。もっときれいになるよう、みんなで家庭排水対策を進めましょう。
- ・ 大和川水系の平成19年の水質マップです。2ページ目には、水質をきれいにする工夫が掲載されています。大和川清流復活ネットワークのHPに <http://www.yamato-river.net/> 掲載されている大和川のH20年12月～H21年3月までの水質の情報です。人口照明がホタルに及ぼす影響（光害）についてのレポート 平成2年から始まった環境守る川づくりの流れがわかります。
- ・ 直線化、つるつる、急こう配”では、ほたるもまちづくりも無理です。従前の機能をもたせ、ゆっくり流す河道計画を！鴨川上流の柵野砂防堰堤のような暮らしに溶け込んだ水辺にするよう、川づくりはまちづくりへともっていきたい。川にも多くの水棲生物がいきているが、この環境を守って、“生きた川”づくりを！金太郎あめのような構造物が溢れてきてい

るが、土木構造物のデザインには、ある種の必然性が備わっていないと---。予算をかけた“饒舌なデザイン”よりも”ほたる”を！ 住民参加のまちづくりを！奈良は人とモノの“通り道”から“始発駅”，“終着駅”に変わったようだ。目的地の繁栄は通り道の繁栄にくらべてはるかに劣るようだ。今こそ既存のマニュアルを金科玉条として無理やり当てはめしないで、生態学的な知見を導入した川づくりを---”ほたる”！いいですね！選択肢の1つ！に思われます。

また、北九州市の街づくりを例にだしてみました。

【北九州市の例】

北九州市の下水道普及率は、平成19年度末現在で99.8%だそうです。奈良県の下水道普及率は、平成19年度末現在で71.6%だそうです。奈良県の普及率は、右肩上がりです。伸びているので、今から、みんなで「ホタルが棲める場所」を用意していけば（北九州市のように）「ホタルが飛び交う河川の範囲」広がるのではないのでしょうか！！

1992年に全国に先駆けて市役所の中にほたる係が創設されたそうで、以下のような仕事をされているそうです。ほたる係の仕事は、その名のとおり、北九州市をホタルなどの身近な生物がたくさん棲むようなまちにするため、市民とともに良好な水辺環境の保全や再生に取り組むと同時に、地域の人々が水辺を愛し大切にしていける気持ちを持つよう、市民のみなさんと一緒にいろいろな活動をしていくことです。

「ほたる」をキーワードにして、市民を巻き込み、市民と行政が協働して環境改善に取り組まれているようです。日本水大賞・審査部会特別賞も受賞されています。

<仕掛け3>ホタルを増やす（コーディネーターからホタルを増やす取り組みについて質問してもらいました。）

投稿

「水がきれいになってきたので、ホタルを放流しようと考えている友人から、幼虫などを養殖・販売しているところがないかと聞かれました。どこか販売しているところがあるのでしょうか？」

回答

「業者はたくさんいます。事実、私の所にもカワニナを買わないかという手紙がきました。本当に、故郷のことや自然を考えているのであれば購入したものを放流しなくてもいいと思います。地域には地域のホタルがいますからよそから移してきても、遺伝子の情報はよそものです。」

自分たちの故郷を何とかしようと思うのであれば、ホタルでなくてもいまだ自然を保護し再生すべきだと思います。そうしている間に、ホタルが戻ってくるかもしれません。故郷の自然再生はそうあるべきで、よそものを持ち込んでも意味がないとおもいます。少しでもホタルが生息しているのであれば、採集して保護し人工繁殖させてもどすことは可能だと思います。」

いずれも、投稿数はそれほど伸びませんでした。



5. おわりに

「私も小さい頃、ホタルを追いかけてました。三輪のおんばらさんの花火大会を見ていて、ホタルが飛んでいました。水田の畦道です。7月の下旬ですからヘイケボタルでした。ゲンジは、5月下旬から6月いっぱいまで、6月中旬から8月初旬までがヘイケで8月から9月いっぱいぐらいは、ヒメボタルかなと思います。これは、私の住む地域での私の記憶です。今では、ヒメボタルを見ることができません。写真は、ヒメボタル（辻本始氏（橿原市昆虫館）提供）。」

以上は、投稿者のこれは何ホタルですか？という質問に答えたものです。

発言概要でも記載しましたが、多くの投稿者はホタルについての興味・関心で終わります。

だからホタルのシーズンがすめばアクセスと投稿数（2009.6月アクセスが 939、投稿 19、同様に7月 744、4）は大幅に減少しました。

今回の会議室の取り組みでは、ホタルというイメージ（その生存時間の短さ故に儚い、しかし美しく輝いて命をとじる。）が先行しているために思いが優先され、今回の投稿状況になったと思われます。

企画側の思いである「街づくり」には、若干隔たりがあったと思います。ただ、今回の発信で、街づくりの最初の一步の取り組みはホタルでいけるだろうとも思います。

ホタル再生でキャッチした、多くの人たちの心をどのように自然環境に向け、それをどうして街づくりや私たちの生活にまで進めていけるかが、これからの課題であると思います。

最後に、事務局をはじめ多くの方々のご協力でこの会議室が円滑に運営されたことにコーディネーター同心から感謝いたします。



IV. 広報活動、登録・投稿・アクセス集計

1. 電子会議の広報活動（実施した広報媒体）

(1) 新聞発表（奈良新聞）	1 件
(2) ホームページリンク（団体、機関）	11 件
(3) メールマガジン（団体、機関）	3 件
(4) 機関紙 / 地域情報誌	3 誌
(5) 会報	3000 部
(6) 放送	2 件
(7) ポスター（公共施設、企業、交通機関）	124 枚
(8) チラシ（公共施設、企業、交通機関）	5102 枚

自治体機関	21 機関
自治会	4 地区
企業	4 社
医療機関	2 機関
研修会	3 件
その他	7 件

2. 電子会議室 アクセス・投稿状況

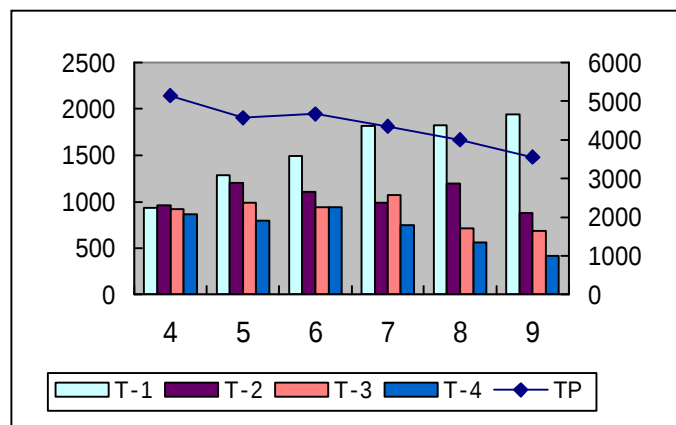
グラフ

右縦軸：各テーマごとの件数（棒グラフ）

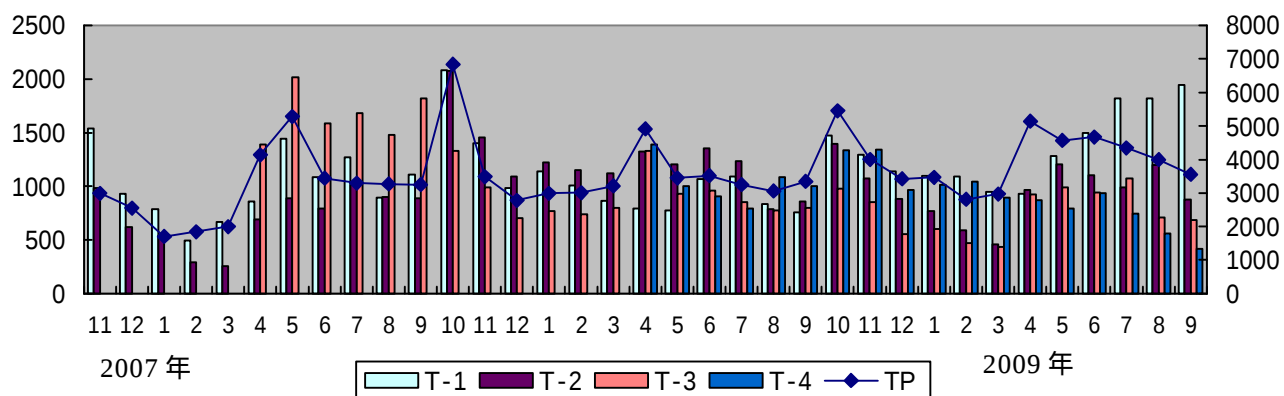
左縦軸：トップページ（折れ線グラフ）

(1) 電子会議室アクセス数（2009/4～9）

	TP	HP	T-1	T-2	T-3	T-4
09/4	5138	5218	932	963	923	869
09/5	4572	5733	1283	1206	989	794
09/6	4670	5893	1495	1104	943	939
09/7	4346	5861	1818	993	1075	744
09/8	3996	5352	1820	1200	710	559
09/9	3553	5351	1942	877	685	416
計	26275	33408	9290	6343	5325	4321

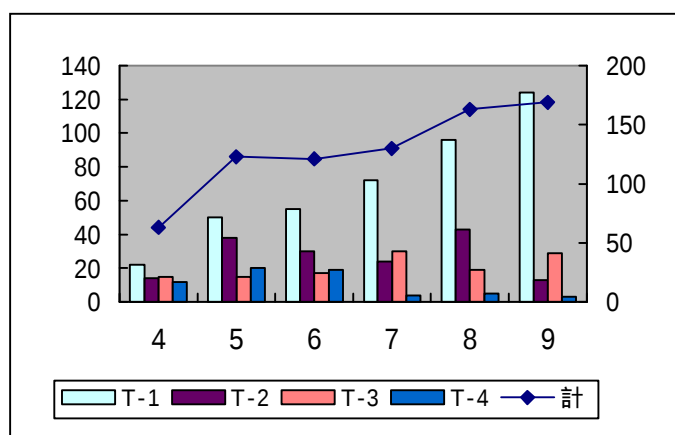


【アクセス数 (2006/11 ~ 2009/9)】

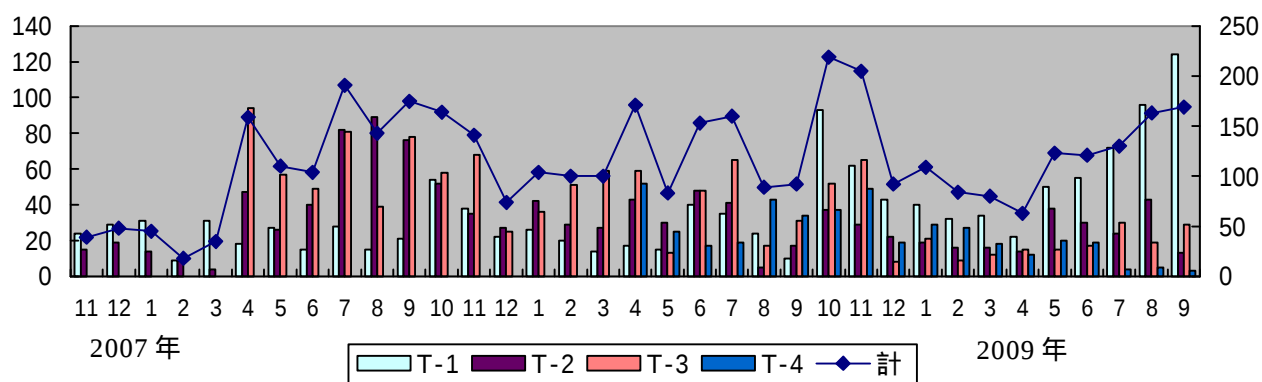


(2) 投稿数(2009/4 ~ 9)

	T-1	T-2	T-3	T-4	計
09/4	22	14	15	12	63
09/5	50	38	15	20	123
09/6	55	30	17	19	121
09/7	72	21	30	4	127
09/8	96	43	19	5	163
09/9	124	13	29	3	169
計	419	159	125	63	766
投稿者	52 人	26 人	22 人	20 人	120 人



【投稿数 (2006/11 ~ 2009/9)】



(3) 登録者状況

	18 下	19 上	19 下	20 上	20 下	09/4	09/5	09/6	09/7	09/8	09/9	21 上	累計
登録数	60	65	35	32	41	10	10	16	7	11	27	81	314

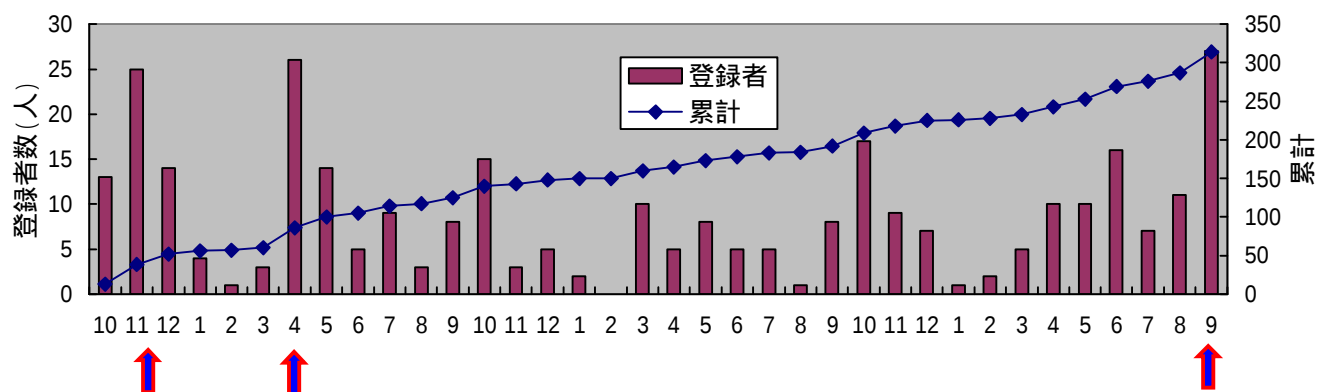


【期最多登録者】

平成 21 年上期 : 81 人

平成 19 年上期 : 65 人

平成 18 年下期 : 60 人



【月間最多登録者月】

平成 21 年 9 月：27 人
 平成 19 年 4 月：26 人
 平成 18 年 11 月：25 人

(4) 期別アクセス数

	TP	HP	T- 1	T- 2	T- 3	T- 4
18 下	11078	7108	4419	2685		
19 上 累計	33780	30394	6667	5176	9979	
19 下 累計	56136	56066	7486	8117	5332	
20 上 累計	77681	86014	4328	6758	5650	6183
20 下 累計	99820	116033	7049	5270	3889	6602
21 上 累計	126095	149441	9290	6434	5325	4321

(5) 期別投稿数

年月	T1	T2	T3	T4	合計
18 下	124	61			185
19 上 累計	124	360	398		882
19 下 累計	174	212	297		683
20 上 累計	141	184	233	190	748
20 下 累計	264	123	167	152	706
21 上 累計	419	159	125	63	766
累計					3970

V. まとめ

1. 全般

なら県民電子会議は、平成 18 年度下期からスタートし、21 年度上期で、3 年間の運用となり、貴重な経験と実績を積むことができた。各会議室（テーマ）は、6 ヶ月間という期間で、大変意義ある論議が出来たことを投稿者の皆さんに感謝申し上げたい。広範囲で、熱心に色々な角度から議論が行われ、奈良県の実状をある程度の確に捉まえた議論、及び提案ができたのではないかなと思う。投稿件数は、今期は、テーマ 1 では、419 件、テーマ 2 では、159 件、テーマ 3 では、125 件、テーマ 4 では、63 件となり、合計 766 件、累計で、3970 件に達した。また、トップページのアクセス数が、26275 件になり、累計で、126095 件であった。多くの方々が閲覧していただいている。今後の検討課題として、広く県民に広げるための広報のあり方と、県政において、また民間において地域の活性化の為に取組むに値する項目を実行することであると思う。

より多くの県民への理解と関心を高め、少しでも多くの人々に会議室参加の呼びかけを継続し、今後も幅広く議論できる「なら県民電子会議室」にしていきたい。県内各地で、地域活動をしてられる方々やグループに、情報交流の場として、電子会議室に参加できるような仕組みを検討していきたい。

2. 課題

毎期、提起していることであるが、継続して取組まなければならない課題として、

投稿者が固定化してきている。登録者、投稿者をもっと増やし、特に、女性層や若い層の参加を増やし、より多様な議論を展開することである。

投稿に参加するメリットを感じられる施策、動機付けが必要である。また、会議室を閲覧している方も非常に多く、如何に投稿行動に結びつけるかの更なる工夫が必要である。

この会議室は県の事業でありながら、一般には県の考え方が分らないという不満がある。県の方針なり考え方を明示して議論することがあってもよい。実際に県のトップの方々が関心を持っておられるのかどうか全く感じられなかった。

品質管理のPDCAサイクルを回すことが基本と考えるので、報告書をあげて終わりではなく、その結果まで考察し、議論に参画した人達に報告する義務がある。

会議室での発言をもっと増やすために、会議室の進行役（コーディネーター）の役割は大きい。正、副のコーディネーターの連携を強めて生きたい。

3. 県への要望

（１）県職員および関係者の参加について

日本で、電子会議室を有効に活用している自治体の一つに、藤沢市がある。市の職員が、電子会議室に積極的に参画している。

テーマに関する県関連部門の職員に、副コーディネーターとして、参加をお願いしてきた。徐々にではあるが、ご協力していただける部門も広がってきた。

関係部門からの積極的な情報提供のお願い

関係部門の業務に係る投稿があった場合、既に実施中の事業について、投稿者がそれを知らない場合、或いは間違っ議論されている場合、担当課から、自主的に内容の紹介をして欲しい。投稿者は最新の情報なり実情を把握している訳ではないので、議論が止まってしまうことになるが、電子会議の中で、行政側の見解として発言を加えてもらうとか、報告結果に基き行政としての対応結果を電子会議室の中で報告してもらう、議論のフィードバックがなされるようにしてもらうと会議室での議論が空論で終わることなく、さらに有効に機能する場になると考える。

（２）広報活動について

「なら県民電子会議室」は、まだまだ、県民に知られていない。チラシ、ポスター、メールマガジン、サイトなどを利用して、広報に努めているが、認知度は低い。テーマに係る部門からの広報支援をお願いしたい。

（３）県の政策への反映

投稿者は、提案に対する県の取り組みについて、強い関心を持っている。その期待があるからこそ、投稿を続けている。電子会議室を継続させるには、提案に対する県の前向きな取り組み姿勢が必要である。

4. 補足

- 運営委員会の開催日：2ヶ月ごとに開催
- コーディネーター会議：運営委員会のない隔月に開催

最後に、この電子会議室を盛り上げていただいた運営委員会、コーディネーターの皆様や、広報活動にご協力いただいた企業、団体、個人の方々に心から感謝申し上げます。



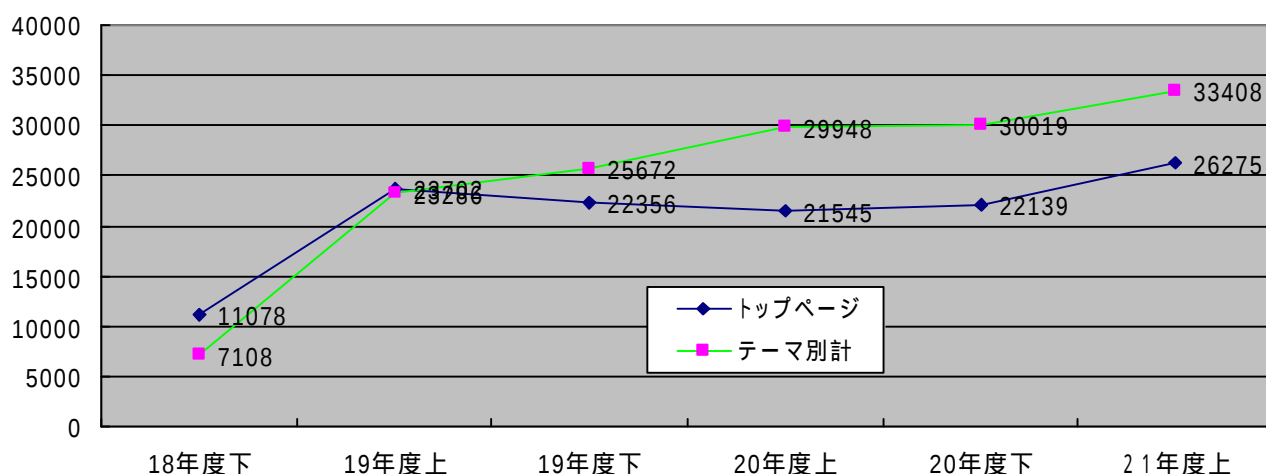
【添付資料 - 1】 **なら県民電子会議室の分析データ**
(平成 18 年 11 月 1 日～21 年 9 月 30 日)

2009 年 10 月 4 日
事務局

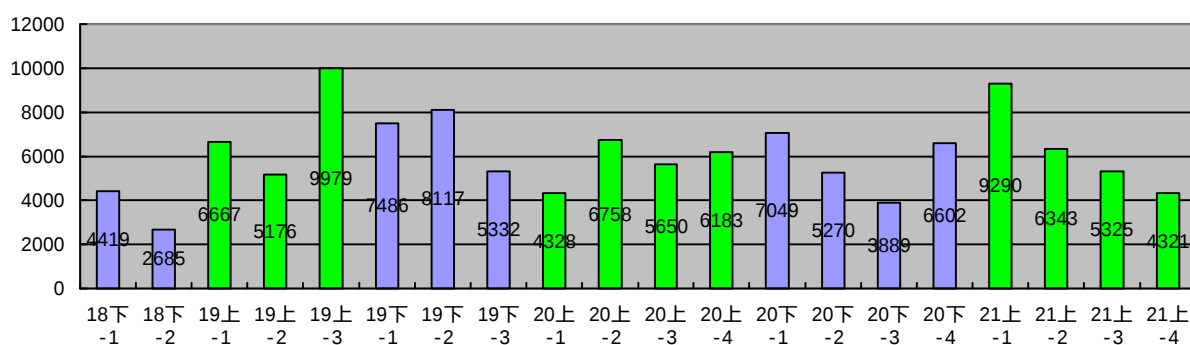
1．期別電子会議室のアクセス・投稿状況

	18 下	19 上	19 下	20 上	20 下	21 上	合計
投稿数	185	882	683	748	789	766	4053
投稿者	26	52	43	44	55	95(120)	231
件 / 投稿者	7	16.9	15.9	17	14.3	8(6.4)	
テーマのアクセス数	7108	23286	25672	29948	30019	33408	149441
トップページアクセス数	11078	23702	22356	21545	22139	26275	127095
登録者数	60	65	35	31	42	81	314

2．トップページ・アクセス / テーマ・アクセス合計



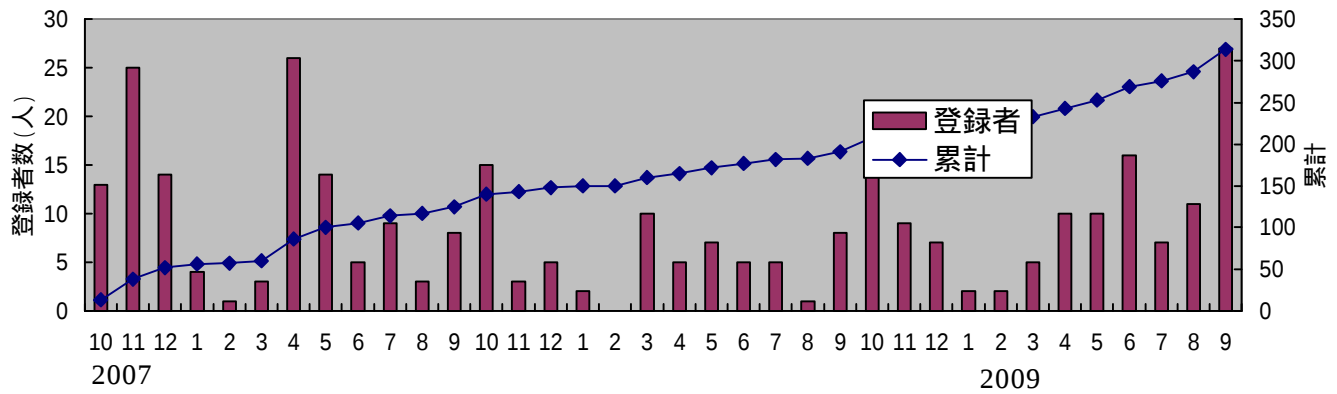
3．テーマ別アクセス数



4．登録者の推移

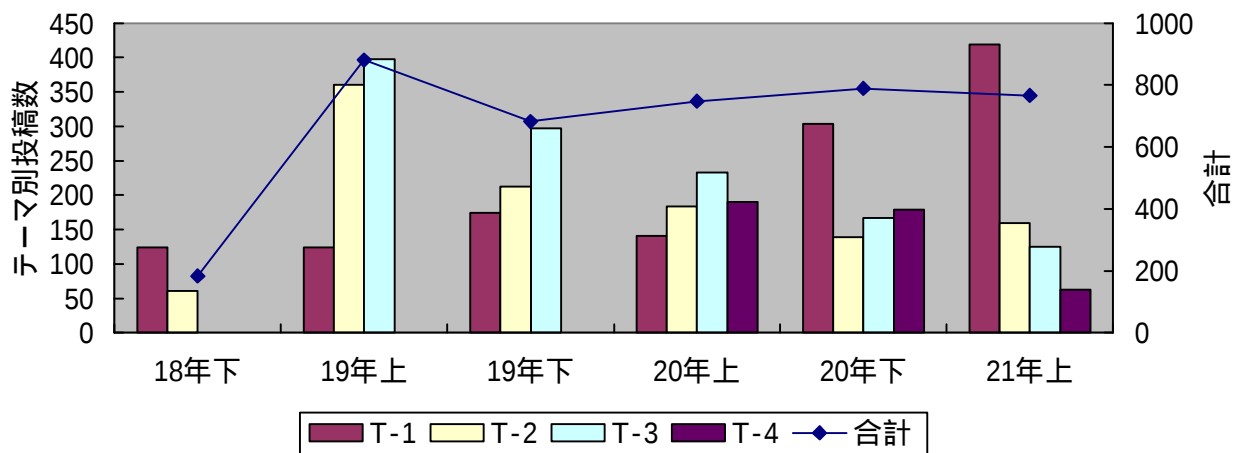
	18 下	19 上	19 下	20 上	20 下	21 上	累計
登録者数	60	65	35	31	43	81	314

【期最多登録者】 平成 21 年上期：81 人 平成 19 年上期：65 人 平成 18 年下期：60 人



【月間最多登録者】 平成 21 年 9 月 : 27 人 19 年 4 月 : 26 人 18 年 11 月 : 25 人

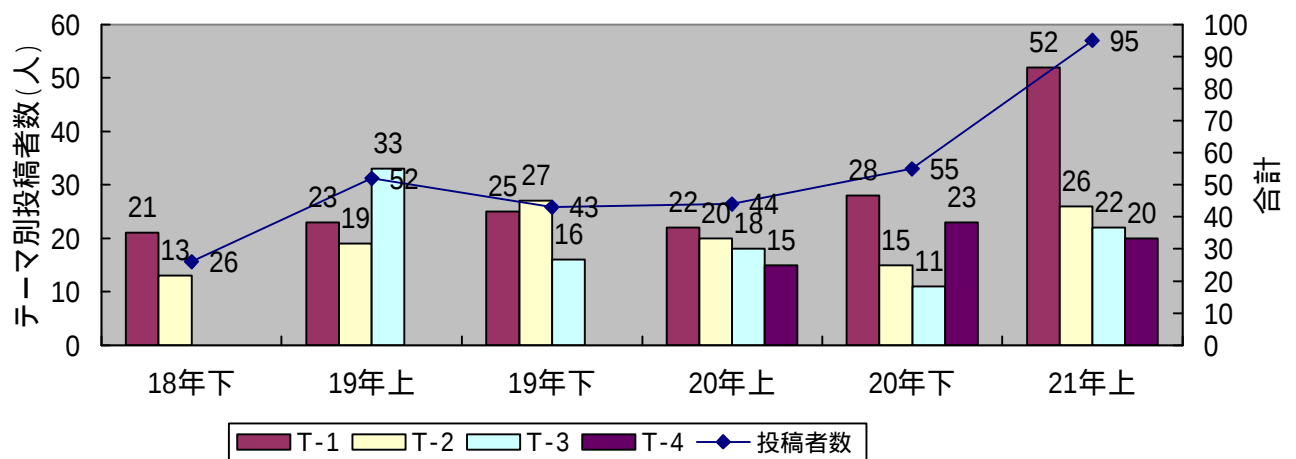
5 . 投稿数の推移



考察 : 20 年度上期から、テーマ数を 4 件に増やしたが、テーマ数を増やしても、トータルの投稿数に大きな伸びは見られない。

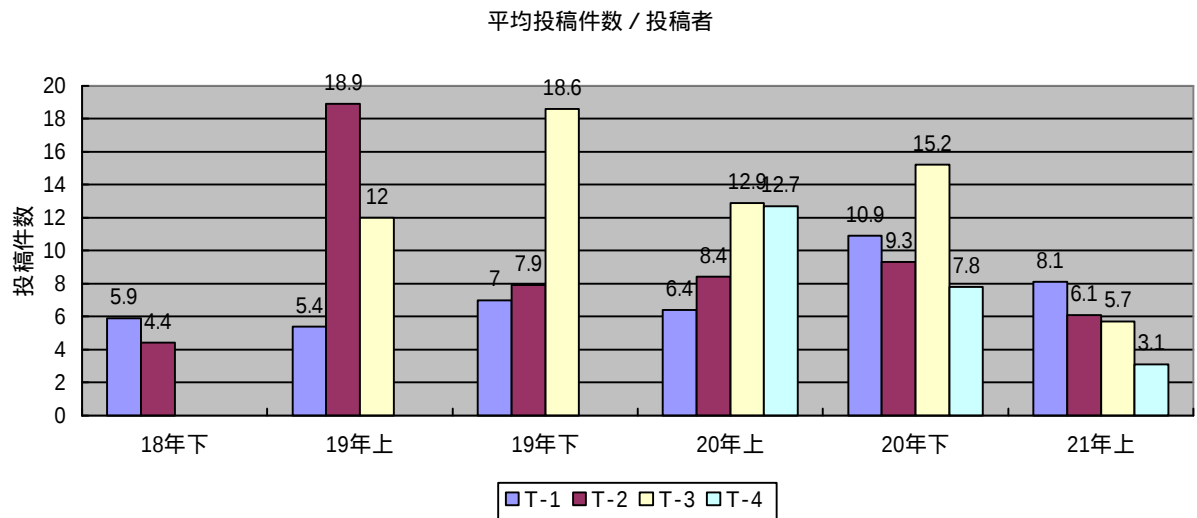
【期最多投稿】 21 年上 T-1 : 418 件 19 年度上 T-3 : 398 件 19 年度上 T-2 : 360 件

5 . 期単位での投稿者数動向

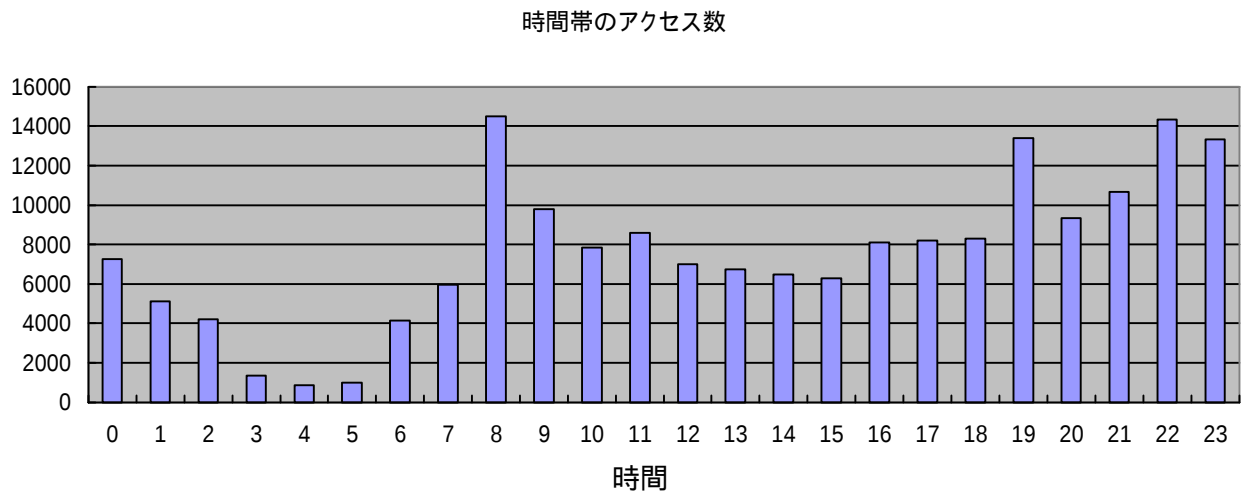


【最多投稿者のテーマ】 21 年上 T-1 : 52 人 19 年上 T-3 : 33 人 20 年下 T-1 : 28 人

6．期別の1人当たり平均投稿数



7．時間帯におけるアクセス（平成18年11月 - 21年3月）



【添付資料 - 2】

平成 21 年度上期 「なら県民電子会議室」運営委員

2009 年 4 月 5 日 事務局

運営委員	
● 委員長 奥家孝彦	奈良県国民健康保険団体連合会 常務理事、e-AAC 理事長
● 副委員長 小山正樹	奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授、e-AAC 副理事長
● 委員・産業界・大学等	(アイウエオ順)
赤塚秀一	シャープ株式会社 環境本部 環境社会貢献部 参事
朝廣佳子	読売奈良ライフ代表取締役社長、平城遷都祭実行委員長
石川千明	いこま育児ネット代表
遠藤英樹	奈良県立大学 地域創造学部 教授
大西 弘	フレンドシップ・フォース・オフ 奈良 会長
大矢智子	近鉄ケーブルテレビネットワーク(株) IT 事業推進部
金田充史	魚佐旅館 専務取締役
城戸振作	e-AAC 会員
木村新一	タイヤ製薬株式会社、e-AAC 理事
木村隆志	NPO 法人奈良の食文化研究会 専務理事
阪本安平	南都経済センター 常務取締役
杉島靖郎	飯田通商株式会社 営業技術部長
高津公彦	富士通株式会社 奈良支店長
田部慶信	自営業(グラフィック・デザイナー)
玉置英隆	県くらし創造部協働推進課 主査
坪内信行	NPO 法人奈良ストップ温暖化の会(NASO) 副理事長
鉄田憲男	「奈良のうまいもの」づくり部会委員
中川 保	県土木部河川課
中西久夫	奈良 2010 年塾 3 期生、シャープ(株)人材開発センター講師
馬場英彦	NPO 法人 チャレンジ企業支援隊 理事
伏見 至	医師
藤野正文	社団法人奈良まちづくりセンター副理事長
堀真寿美	帝塚山大学メディアセンター教材開発課、NPO 法人 CCC - TIES 事務局
松村洋子	奈良 SGG クラブ(善意通訳ガイド協会) 副会長
松本清二	橿原市昆虫館
松本辰雄	奈良交通株式会社 地域振興部 常務取締役
馬詰真一郎	奈良県ホスピス勉強会会長
三宅基之	(有) コミュネット取締役社長
山田順一	N T T AT(株) 営業本部 西日本統括営業部長、e-AAC
遊津隆義	NPO 法人奈良ストップ温暖化の会(NASO) 理事長
吉岡敏子	あけぼの奈良会長
渡辺 孝	e-AAC 会員
・行政 西川良秀	奈良県 広報広聴課
荒川隆行	奈良県 広報広聴課
・事務局 多田充朗	e-AAC 理事
寺村 聡	e-AAC 理事
坂田安男	e-AAC 理事
柳沼壽徳	e-AAC 理事
木谷延高	e-AAC 理事
前川洽治	e-AAC 理事

県政について県民同士で意見交換!

なら県民電子会議室



投稿者募集!

みなさんの参加をお待ちしています。

<http://www.kenminconf.pref.nara.jp/>

閲覧は自由ですので、気軽に閲覧してみてください。

上記サイトに、登録して、ハンドル・ネームで投稿できます。

“なら県民”の入力で
検索できます

平成21年度上期 意見交換テーマ

- ・テーマ : ものづくり産業を考える
- 奈良に興したいこんな産業 -
- ・テーマ : 「もてなしの心」あふれる奈良
- ひと声からはじまるコミュニケーション -
- ・テーマ : 奈良の医療をよくするために
- 受診者の立場から医療を考える -
- ・テーマ : ホタルが飛び交う河川の範囲を広げよう
- 河川・公園・道路を美しくするには -

奈良県を良くしたい、自分の住んでいる地域を良くしたいと思ったことはありませんか。

アイデアを気軽に出し合える場があればいいと思ったことはありませんか。

皆さんが持っている、そんな気持ちを県政に反映したいと思いませんか。

■ 運営主体

なら県民電子会議室運営委員会
(NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ)

■ 問い合わせ先

奈良県総務部知事公室広報広聴課

Tel:0742-27-8327

NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ Tel:0742-33-7863

(<http://e-aac.naist.jp/e-AAC/>), e-mail:e-aac@nifty.com

